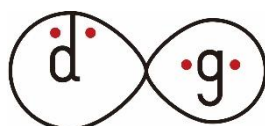


令和8年度（2026年度）

講義概要

こころの時代を, ささえる人へ.

[作業療法学科]



ありがとう、と言われること。

電波学園

学校法人 電波学園
Ame あいち福祉医療専門学校

授業概要			
心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	増谷 千晶	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	2(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 基本的な心理学理論を理解し、人と人、人と外界がどのように関係しあっているのかを把握する。その上で、対人援助をしていく際の注意点等を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 心理学とは何か、人間の言動にはどのような特徴があるのかを考え、理解していく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対人援助をしていく上で、他者理解、あるいは自己理解の重要性に気づき、実際の現場でそれを生かせるようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	心理学とはなにか		
2	知覚の特性		
3	学習 (条件付け等)		
4	記憶 (長期記憶・短期記憶等)		
5	発達		
6	知能		
7	青年期 (自我同一性)		
8	性格・人格		
9	人格の構造理論		
10	心理療法		
11	自己		
12	家族		
13	事例		
14	社会心理		
15	全体的なまとめ		
[使用テキスト・参考文献] リハベーシック 心理学・臨床心理学		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
情報と社会	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	矢島 親男	無
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	2(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 社会常識となりつつあるパソコン知識を習得し、「情報」を活用するための操作（オペレーション）を主とし、オペレーション技術の到達と Web 利用の基礎を学び、情報活用の基本的知識と技術を習得する。また、国際問題の理解や、情報収集と整理についても習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法士の実践研究におけるデータ活用のため、統計学の活用を学ぶ。簡単な関数を使用してデータベース概念の一端を演習を通じて習得。各種研究発表の場面で活用できるようにする。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ワープロ、表計算、Web（インターネット検索・e-Mail）操作、ホームページ作成、プレゼンテーションの操作等々。入門レベルのオペレーション技術の習得。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	パソコンの基礎		
2	電子メールの基礎・Teams について		
3	Microsoft365 の基礎 1		
4	Microsoft365 の基礎 2		
5	Microsoft365 の基礎 3		
6	Microsoft365 の基礎 4		
7	Microsoft365 の基礎 5		
8	Microsoft365 の基礎 6		
9	Microsoft365 の基礎 7		
10	表計算の基礎 1		
11	表計算の基礎 2		
12	表計算の基礎 3		
13	表計算の基礎 4		
14	プレゼンテーションツールの活用 1		
15	プレゼンテーションツールの活用 2		
[使用テキスト・参考文献] windows10 対応 30 時間でマスター OFFICE 2016		[単位認定の方法及び基準] 学則第 16 条の 1, 2, 3, 4, 5 項を基準とする。 提出物の提出状況及び出席率 40%, 提出課題 60% 上記比率の下, 60 点以上のものを合格として単位数認定	

授業概要			作業療法学科
教育と社会	授業の種類	授業担当者	
	講義	富高 史裕	
実務経験の有無	無		
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	2(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①昨今は、多職種連携・チーム医療と言われるようになってきている。このような環境において、社会資源について理解をする。また、地域活動として地域共生社会・認知症カフェなどについても理解を深めていくこととする。</p> <p>②作業療法士を取り巻く環境についても理解を深めるために、作業療法士協会の役割と行政とのつながりについても合わせて理解する。</p> <p>③実習や国家試験で必要な文章を読み解く力が必要になるため、文章読解力についてもスキルを習得していく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①医学モデル社会モデルを理解する。国際生活機能分類を理解する。社会保障について理解する。</p> <p>②学校教育における OT を理解する。日本作業療法士協会について理解する。</p> <p>③公益財団法人日本漢字能力検定協会における文章読解・作成能力検定の出題範囲の内容に準拠する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <p>①社会参加におけるフォーマル・インフォーマルな資源がなぜ必要かわかる。</p> <p>②職能団体としての日本作業療法士協会の必要性が分かる。</p> <p>③国家試験に必要な文章読解の基礎を習得することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション「なぜ OT が社会を学ぶの？」		
2	医学・社会モデルについて		
3	ICF の活用		
4	学校教育の仕組み		
5	インクルーシブ教育		
6	合理的配慮		
7	日本作業療法士協会について		
8	OT の倫理と責任		
9	愛知県作業療法学会に参加①		
10	愛知県作業療法学会に参加②		
11	リカレント教育について		
12	地域共生社会について		
13	高齢者福祉と学びについて		
14	未来の社会デザインについて		
15	教育と社会について(認知症サポーター養成講座)		
<p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本作業療法士協会 資料 ・国際生活機能分類 ・ 		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>期末筆記試験：60%</p> <p>提出課題：40%</p> <p>60点以上合格</p>	

授業概要			
認知症ケア論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	富高 史裕	無
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	2(30)	1年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 ・目的 認知症ケアは、認知症のある方が自分らしく尊厳を持って生活できるように支援することを目的にする。 ・ねらい リハビリにおいて、認知症は主疾患もしくは併存疾患として多く担当する。対象者の生活の質向上は言うまでもなく必須であり必要とされている。そのため、認知症ケアの基本を理解することをねらいとする。			
【授業全体の内容の概要】 ①一般社団法人日本認知症ケア学会が主催する認知症ケア准専門士認定試験の標準テキストを使用して認知症ケアについて学ぶ。 ②グループワークにてチームケアの担い手としての役割を理解する。			
【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 ①一般社団法人日本認知症ケア学会が主催する認知症ケア准専門士試験を受験して合格できるレベルになる。 ②認知症ケアの意味を理解して、実習等で実践できるようになる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・認知症とは		
2	認知症ケアの基礎について		
3	認知症ケア基礎論① 第1巻 第1章～第4章		
4	認知症ケア基礎論② 第1巻 第5章～第7章		
5	認知症ケア基礎論③ 第1巻 第8章～第10章		
6	認知症ケアの実際Ⅰ：総論① 第2巻 第1章～第3章		
7	認知症ケアの実際Ⅰ：総論② 第2巻 第4章～第5章		
8	認知症ケアの実際Ⅰ：総論③ 第2巻 第6章～第8章		
9	認知症ケアの実際Ⅰ：総論④ 第2巻 第9章～第11章		
10	認知症ケアの実際Ⅰ：各論① 第3巻 第1章～第3章		
11	認知症ケアの実際Ⅰ：各論② 第3巻 第4章～第5章		
12	認知症ケアの実際Ⅰ：各論③ 第3巻 第6章～第8章		
13	認知症ケアにおける社会資源 第4巻 第1章～第3章		
14	認知症ケアにおける社会資源 第4巻 第4章～第5章		
15	まとめ		
【参考文献】 一般社団法人日本認知症ケア学会標準テキスト 第1巻改定5版・認知症ケアの基礎 第2巻改定5版・認知症ケアの実際Ⅰ：総論 第3巻改定6版・認知症ケアの実際Ⅱ：各論 第4巻改定6版・認知症ケアにおける社会資源		【単位認定の方法及び基準】 期末筆記試験：100%。60点以上合格。	

授業概要			
人間関係とコミュニケーション	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	富高 史裕	無
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	2(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 患者・利用者との良好な人間関係の構築を目的に,人間関係論,コミュニケーション論を学ぶ. 作業療法士が狭い経験や専門性だけに依拠せず,広く人間を捉え謙虚に学び続けることを基礎とする.そして,その上に “医療の目”を育てるために,人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性,医療における倫理的課題について 考えさせる.併せて,人間として必要なコミュニケーションの基礎を身につける.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人間の心理学的理解から人間関係の心理,人間関係形成のプロセスを概観し,活動の場に観る人間関係を知り,コミュニケーションの構成要素,態様を捉え,技法演習を通して自らのコミュニケーション能力を認識する.</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 コミュニケーションの構造を理解し,作業療法士として活動する場における自己のコミュニケーション上の課題を見出す.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	医療者を目指すあなたへ		
2	自分を知る		
3	他者から見た自分		
4	自分の態度		
5	人間の心を理解する		
6	対人コミュニケーション分析		
7	人間関係の基本「ストローク」		
8	コミュニケーションの基本的知識		
9	相手を知るための観察のしかた		
10	よい聴き手になるための聴きかた		
11	伝わる伝えかた		
12	自分も相手も大切にしたい伝え方		
13	自己管理 (時間管理と健康管理)・(感情管理)		
14	コミュニケーション技法		
15	試験について		
<p>【使用テキスト】 山口美和 ; PT・OT・STのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第3版 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 ① OSCE(コミュニケーション技術) : 60点 ② 15回目までに提出物で40点 定期試験は①+②を合わせて60%以上を合格とする.</p>	

授業概要			
健康と運動	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	2(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人にとって健康と運動が身体・精神面に与えている因子について知る。運動をする中で人間関係を構築とコミュニケーションについて知る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 健康と運動では、健康(Health)の領域で運動がどのような働きをするのか学習します。リハビリテーションは対象者を健康と幸福にしていく職種です。本科目では健常者の良好な状態に着目していき、健康の諸要素について学んだ後に運動を通して実際に体験し学生同士で様々な運動を企画してもらいながら学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 健康の概念が身体・精神面に与える影響を理解し説明ができる。 人間関係を構築するためにコミュニケーションができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・「医療者コミュニケーション」・ロールプレイ		
2	自分とはなにか		
3	運動における準備を企画する①(企画書作成)		
4	運動における準備を企画する②(企画書作成)		
5	運動の体験①・振り返り		
6	モルック・ボッチャを実施する計画を立てる①(企画書作成)		
7	モルック・ボッチャを実施する計画を立てる②(企画書作成)		
8	種目：ボッチャ体験・モルック体験①		
9	種目：ボッチャ体験・モルック体験②		
10	学生が主体となり運動を企画する①(企画書作成)		
11	学生が主体となり運動を企画する②(企画書作成)		
12	学生が主体となり運動を実施する①		
13	学生が主体となり運動を実施する②		
14	学生が主体となり運動を実施する③		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		60点以上合格	
		<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題 8割 ・平常点(出席・授業態度)2割 	

授業概要			
総合学習論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
30	2(60)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>身体構造の把握: 主要な骨格・筋肉の名称、付着位置、および作用を正しく理解する。 制御系の理解: 中枢・末梢神経による運動制御と反射のメカニズムを習得する。 内部機能の理解: 呼吸・循環・代謝など、生命維持に関わる内部器官の生理的反応を学ぶ。 動作への応用: 歩行分析や運動学習の理論を、実際の個別支援やリスク管理に繋げる視点を持つ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>序盤では、放課後等デイサービスの制度的背景と現場での実際を学び、支援の対象となる児童の特性を理解する視点を養います。中盤以降は、骨格系・筋系・神経系の各論へと進み、顔面、体幹、四肢の付着位置や作用を詳述します。特に神経系においては、中枢から末梢、シナプス伝達や反射に至るまで、運動制御の複雑なネットワークを可視化して理解を深めます。終盤では、循環器・消化器・呼吸器などの内部器官の生理機能と、それらが統合された「歩行」などの動作分析、さらに効果的なスキル獲得のための運動学習理論までを網羅します。基礎医学知識をリハビリテーションの現場実践へと繋げる、実践的な基礎理論を扱います。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <p>主要な骨格・筋肉の名称、起始・停止、および作用を正しく説明できる。 中枢・末梢神経の伝導路および反射の仕組みを理解し、運動指令の流れを図説できる。 呼吸・循環・代謝の生理的反応を理解し、運動時のバイタルサインの変化を予測できる。 歩行周期の各相における関節運動と筋活動の特徴を、解剖生理学的視点から分析できる。 放課後等デイサービス等の現場において、身体機能の特性に合わせた適切な支援・指導計画を立案できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1,2	放課後等デイサービスとは(講義・調べ学習・グループワーク)		
3,4	放課後等デイサービスの実際		
5,6	筋の構造と機能、筋収縮、筋の付着位置・筋の運動① (顔面・体幹)		
7,8	筋の構造と機能、筋収縮、筋の付着位置・筋の運動② (上肢)		
9,10	筋の構造と機能、筋収縮、筋の付着位置・筋の運動③ (下肢)		
11,12	骨格系・体表解剖・運動(運動単位・筋緊張・生理的反応)		
13,14	神経① 中枢神経系・自律神経・神経線維・上行性(皮膚感覚)・下行性(運動)伝導路・		
15,16	神経② 中枢神経系・脊髄の構造・大脳基底核・大脳辺縁系		
17,18	神経③ 末梢神経系・神経-筋接合部・シナプス伝達・反射(伸長反射)・興奮伝導		
19,20	神経④ 末梢神経系・脳神経と核・神経の分類・上肢・下肢・二重神経支配について・反回神経		
21,22	動脈と静脈から脈管系・循環		
23,24	内臓諸器官① 消化器(咀嚼から排便まで)・内分泌・栄養・代謝・消化酵素		
25,26	内臓諸器官② 泌尿器(腎臓～排尿まで)・生殖器・組織		
27,28	呼吸器・呼吸運動・体温調節		
29,30	動作分析・歩行・運動制御と運動学習		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
参考図書		筆記試験: 80点	
①理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学		レポート提出(放課後デイサービスについて)20点	
		合計 60点以上合格。	

授業概要			
解剖学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重 香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治療など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、総論である人体のあらましをはじめ、神経系、脈管系を中心に講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 細胞、組織、器官さらに各器官系の相互的構造・作用 (人体のあらまし) について理解できる。神経系 (中枢神経、末梢神経) 脈管系 (心臓、全身の動脈、静脈) について説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人体のあらまし①		
2	中枢神経系①		
3	中枢神経系②		
4	中枢神経系③		
5	中枢神経系④		
6	中枢神経系⑤		
7	末梢神経①		
8	末梢神経②		
9	末梢神経③		
10	末梢神経④		
11	循環器系①		
12	循環器系②		
13	循環器系③		
14	循環器系④		
15	循環器系⑤		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準理解療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
解剖学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法を行うにあたり、人体構造を十分に理解することが必要である。本講義では、四肢の神経・筋・動作を中心に学ぶ。人体解剖に興味をもち怯まず勉学に励んで下さい</p> <p>【授業全体の内容の概要】 骨の構造や発生について総論的に理解する。 骨格全体の成り立ちを理解するとともに、その名称等を理解する。 骨の連結について理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 全身の骨の構造・名称とその連結について理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	骨の形・意味, 長管骨の構造		
3	骨の発生 吸収と形成		
4	骨連結の基本		
5	脊柱		
6	骨盤		
7	上腕(肩関節～肘関節)		
8	中間テスト 前腕		
9	手部		
10	大腿(股関節～膝関節)		
11	下腿		
12	足部		
13	頭蓋		
14	復習		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
解剖学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重 香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治癒など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、感覚器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系など内臓系を中心に講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 感覚器系 (体性感覚・特殊感覚)、消化器系 (消化管系、肝臓、胆嚢、膵臓)、呼吸器系 (上気道・下気道、肺)、泌尿器系 (腎臓、尿路)、生殖器 (男性、女性生殖器) について説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	泌尿器①		
2	泌尿器②		
3	生殖器①		
4	生殖器②		
5	呼吸器①		
6	呼吸器②		
7	呼吸器③		
8	消化器①		
9	消化器②		
10	消化器③		
11	消化器④		
12	感覚器①		
13	感覚器②		
14	感覚器③		
15	感覚器④		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
「標準理学療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院		筆記試験。60点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。	

授業概要			
解剖学IV	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法を行うにあたり，人体構造を十分に理解することが必要である．本講義では，四肢の神経・筋・動作を中心に学ぶ．人体解剖に興味をもち怯まず勉学に励んで下さい</p> <p>【授業全体の内容の概要】 骨格筋の形態と構造，種類・特長を理解する． 骨格筋の作用について理解する． 身体各所の骨格筋の具体的な起始・停止・走向・神経支配を理解する．</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 骨格筋の一般的な構造とその機能を理解する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	筋の種類 骨格筋の構造		
2	骨格筋の形状		
3	骨格筋の補助装置について 骨格筋の作用について		
4	筋の運動について		
5	体幹の筋①		
6	体幹の筋②		
7	上腕の筋		
8	前腕の筋①		
9	前腕の筋②		
10	手部の筋		
11	大腿の筋		
12	下腿の筋		
13	総復習 自分たちで問題を作る		
14	自作問題を解く		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
解剖学実習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 骨・筋・じん帯の構造を三次元的に理解できるようになることを目的とする 臓器の位置関係を理解できるようになる 三次元的な身体構造の理解につなげられる</p> <p>[授業全体の内容の概要] 骨模型のスケッチや骨・筋・じん帯のそれぞれの目的をレポートや討論にて解決する 臓器の位置関係や付随する器官について学ぶ 神経の構造を三次元的に理解する</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 国家試験にて出題されている問題が解けるようになる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	上肢の骨のスケッチ		
3	下肢の骨のスケッチ		
4	脊柱の骨のスケッチ		
5	寛骨のスケッチ		
6	肩関節周囲の構造		
7	前腕屈筋の構造		
8	手指の構造		
9	股関節周囲の構造		
10	膝関節周囲の構造		
11	腕神経叢とは		
12	腕神経叢の模型作成		
13	消化器・呼吸器・循環器・泌尿器・生殖器の位置関係①		
14	消化器・呼吸器・循環器・泌尿器・生殖器の位置関係		
15	総復習		
<p>[使用テキスト・参考文献] 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院 骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣, 「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト及び提出物の提出状況=60% 定期試験=40% 上記比率の下、60点以上のものを合格とし単位認定する。</p>	

授業概要			
解剖学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	畑山 直之・福重 香・佐名木 めぐみ	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人体の構造を総合的に理解することを目的とする。 コメディカルの学生が解剖を学ぶことの重要性を理解し、人への尊厳を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人体の構造理解のためのレポート作成を行ったうえで、解剖見学実習にてその理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 国家試験レベルの人体の構造について解答できる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	解剖見学実習を実施する上での倫理感について		
3	基本的な人体の構造のグループレポート作成①		
4	基本的な人体の構造のグループレポート作成②		
5	基本的な人体の構造のグループレポート作成③		
6	基本的な人体の構造のグループレポート作成④		
7	神経の構造の立体的理解①(模型作成)		
8	神経の構造の立体的理解②(模型作成)		
9	疾患等の肉眼的解剖の理解①		
10	疾患等の肉眼的解剖の理解②		
11	解剖見学実習に向けての事前説明		
12	解剖見学実習前課題試験		
13	解剖見学実習		
14	解剖見学実習		
15	実習結果のまとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 提出物の提出状況＝40% 解剖見学実習前課題試験＝60% 上記比率の下、60点以上のものを合格とし単位認定する。</p>	

授業概要			
機能解剖学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	佐名木 めぐみ・松木平 和人・木立 美由紀
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
30 回	2(60)	1 年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法士に必要な触察について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 筋肉・骨・神経・血管について, 実習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 作業療法士において必要な触察技術を身につけることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション①		
2	オリエンテーション②		
3	体幹の骨①		
4	体幹の骨②		
5	上肢の骨①		
6	上肢の骨②		
7	下肢の骨①		
8	下肢の骨②		
9	体幹の筋 (後面) ①		
10	体幹の筋 (後面) ②		
11	体幹の筋(前面)①		
12	体幹の筋(後面)②		
13	上腕の筋①		
14	上腕の筋②		
15	前半まとめ①		
16	前半まとめ②		
17	前腕の筋(前面)①		
18	前腕の筋(前面)②		
19	前腕の筋(後面)①		
20	前腕の筋(後面)②		
21	股関節周囲筋①		
22	股関節周囲筋②		
23	大腿前面①		
24	大腿前面②		
25	大腿後面の筋①		
26	大腿後面の筋②		
27	下腿前面の筋①		
28	下腿前面の筋②		
29	総復習①		
30	総復習②		
<p>[使用テキスト・参考文献] 骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣 水着など触察できる服装を用意すること ウェットティッシュも各自用意すること</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 実技試験 40 点, 小テスト 40 点, 口頭試問 20 点 , 60 点以上 合格</p>	

授業概要			
生理学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	宮津 真寿美	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 生理学とはどのような仕組みで私たちの体が正常に機能しているのかを追求する学問である。人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調節されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職を旨とするにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 生理学 I では、神経系、筋系、骨格系、感覚系などの動物性器官において、我々の体がどのように機能しているかを学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 神経系、筋系、骨格系、感覚系などの動物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生理学総論：生理学とは、身体の階層性（組織、器官、器官系）、生命現象（エネルギー産生）		
2	生理学総論：水（体液、浸透圧）、ホメオスタシスと負のフィードバック 細胞の構造と機能：細胞膜、核、細胞小器官		
3	細胞の構造と機能：静止電位と活動電位 神経の興奮伝導と末梢神経：神経細胞の構造、興奮の発生と伝導		
4	神経の興奮伝導と末梢神経：末梢神経の種類、シナプスにおける興奮の伝達		
5	神経の興奮伝導と末梢神経：自律神経		
6	中枢神経系：中枢神経とは、脊髄、脊髄反射		
7	中枢神経系：脳幹、小脳、間脳、大脳皮質		
8	中枢神経系：脳の高次機能、大脳基底核と脳梁、辺縁系、脳室と脳脊髄液 筋と骨：筋の分類、骨格筋構造		
9	筋と骨：筋の分類、骨格筋（構造、神経による支配、興奮収縮連関、骨格筋の収縮）		
10	筋と骨：骨格筋（骨格筋線維の種類、肥大と萎縮、筋紡錘と Golgi 腱器官、筋電図）		
11	筋と骨：心筋、平滑筋、骨		
12	感覚：感覚とは、体性感覚（皮膚感覚、深部感覚）、内臓感覚		
13	感覚：特殊感覚（視覚）		
14	感覚：特殊感覚（聴覚と平衡感覚、味覚、嗅覚）		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 生理学第 6 版		筆記試験。60 点以上合格。	

授業概要			
生理学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	宮津 真寿美	有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 生理学とはどのような仕組みで私たちの体が正常に機能しているのかを追求する学問である。人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調節されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職をみざすにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 生理学Ⅱでは、循環系、呼吸系、消化器系、内分泌系などの動物性器官において、我々の体がどのように機能しているかを学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 循環系、呼吸系、消化器系、内分泌系などの動物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。 器官内、器官間の調節機能が説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	血液：血液の組成と機能，赤血球（形態，数，酸素の運搬，溶血，貧血）		
2	血液：白血球（分類と機能，防御機構），血小板（形態と機能，凝固，線溶），血漿（電解質，グルコース，血漿タンパク質），血液型		
3	心臓と循環：血液の循環，心臓の興奮と刺激伝達系，心電図（導出法，Einthovenの正三角形と電気的心軸，波形異常）		
4	心臓と循環：血液の拍出と血圧，心周期，前負荷・後負荷と収縮性		
5	心臓と循環：血圧の調整（筋原性，液性，自律神経，腎臓），微小循環と物質交換，静脈還流，臓器循環，リンパ循環		
6	呼吸：外呼吸と内呼吸，気道と肺胞，呼吸運動，呼吸気量，ガス交換とガス運搬		
7	呼吸：呼吸の調節，病的呼吸，尿の生成と排泄，腎臓の役割，腎臓の構造，尿の生成		
8	尿の生成と排泄：クリアランス，排尿，尿の性状と排尿異常		
9	酸塩基平衡：血漿のpH調節，アシドーシスとアルカローシス 消化と吸収：消化器の役割，口腔内消化と嚥下		
10	消化と吸収：食道，胃，十二指腸，回腸・空腸		
11	消化と吸収：大腸，肝臓 内分泌：ホルモンの役割，種類，分泌調節，各腺から分泌させるホルモン		
12	内分泌：各腺から分泌されるホルモン		
13	生殖と発生・成長と老化：男性生殖機能，女性生殖機能，受精・着床胎児の発達		
14	代謝と体温：栄養素，エネルギー代謝，体温		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 生理学第6版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
運動学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士は客観的に身体運動を理解しなければならない。この講義では身体運動がどのように発現しているのか、どのように表れているのか、ということ学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法士が動作分析を行う上で基本的な用語を理解し、解剖学・生理学と結び付けられるようにする。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <p>①身体の運動をメカニズムとして捉えて理解する。 ②運動学実習に向けて医学用語を理解し客観視することが出来る。 ③互いに医学用語(専門用語)を使って他者に伝えることが出来る。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	運動学とは		
2	筋の種類 (随意筋・不随意筋)・骨格筋の発生、筋繊維の特徴		
3	運動の方向 関節の種類		
4	エネルギー代謝 (基礎代謝、呼吸商、METs)		
5	上肢の運動 (上肢の運動の特徴、肩複合体)		
6	上肢の運動 (肘関節と前腕・手関節・指)		
7	下肢の運動 (下肢の構成、股関節の運動)		
8	下肢の運動 (足関節および足部の運動)		
9	体幹の運動 (脊柱の運動、頸椎と頸部の運動)		
10	体幹の運動 (胸椎と胸郭の運動、腰椎と腰部の運動、骨盤の構造と仙腸関節の運動)		
11	頭部の運動 (顔面運動)		
12	頭部の運動 (咀嚼運動、嚥下運動)		
13	嫌気性解糖と ATP 産生、運動単位		
14	伸張反射 (I α 、 α ニューロンなど)、末梢神経の種類		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学</p> <p>【参考文献】 基礎運動学 第6版 補訂版 22刷 宮本省三：人間の運動学 協同医書出版 松房利憲：運動学で心が折れる前に読む本 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
運動学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 本講義では、前期に覚えた医学用語・知識を活用して実動作の中で身体運動を観察して他者に伝えることができるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 静的姿勢・動的姿勢・歩行を実際に行うことで、正常な身体運動とは何かを学ぶ。 身体運動の中で運動学習とはなにかを知り、学習理論を応用できるようになる。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 姿勢分析・歩行分析・運動学習を理解し、観察したことを分析し、動作分析の手順に合わせて書き出し、他者に伝えることができるようになる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	成人の正常立位姿勢（重心線の位置）、基本的立位姿勢の重心線		
2	正常歩行の特徴（重心移動や骨盤の傾斜）、歩行周期		
3	異常歩行（分回し歩行、神経麻痺歩行）		
4	骨格筋の筋張力（求心性・遠心性・等尺性について）、		
5	姿勢分析（ペアワーク）姿勢分析 発表(ペア)		
6	歩行とは、歩行周期と距離時間因子		
7	歩行のキネマティクス、歩行の運動力学		
8	歩行の筋電図、歩行のエネルギー論と最適歩行、歩行の開始と停止		
9	歩行分析（グループワーク）		
10	歩行分析 発表（グループワーク）		
11	運動学習とは、学習と記憶		
12	運動学習理論の歴史的展開、生態学的アプローチ概論		
13	スキーマ理論概論、運動学習研究技法、運動学習の実験デザイン		
14	まとめ		
15	基礎を臨床につなげるには		
<p>【使用テキスト】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学 【参考文献】 基礎運動学 第6版 補訂版 22刷 宮本省三：人間の運動学 協同医書出版 松房利憲：運動学で心が折れる前に読む本 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
運動学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	吉野 孝弘
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 運動学実習では、人体の仕組みと運動を解剖学・運動学・生理学の基本として理解する。運動・動作課題を目で見て確かめ、理解を深めつつ、レポート課題の記載方法について学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人体の仕組みと運動を分析する</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 運動の位置づけができる レポートの記載方法が理解できる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	重心とは		
3	重心動揺		
4	重心動揺 (実験1: 重心動揺の要因)		
5	実験1 発表・レポート: 歩行とは		
6	歩行分析		
7	歩行分析 (関節と筋活動)		
8	歩行分析 (実験2: 歩行(正常歩行・異常歩行))		
<p>【使用テキスト】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学</p> <p>【参考文献】 基礎運動学 第6版 補訂版 22刷</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>①レポート(50点: S50点, A40点, B30点, C20点の4段階評価. 提出期限の厳守, 内容(丁寧・誤字脱字の有無・課題に準ずる内容かどうか)判断)学校指定のレポート用紙に記載すること</p> <p>②発表 25点</p> <p>③取り組み姿勢 25点</p> <p>①～③の合計で 60点以上が合格</p>	

授業概要			
人間発達学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明美	有
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人間発達を生涯発達という視点で、胎生期から老年期に至るまでの発達段階ごとに、それぞれの身体、運動、認知機能、社会生活、心理面等での発達の特徴、課題を理解する。その中で定型発達についての知識を得ることで、臨床場面で出会う多様な個人を発達という観点から理解できるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人間の発達をそれぞれの時期に分け、その時期での定型発達を学ぶ。特にリハビリテーションに必要となる各時期での特徴を知る。また、自身の発達を振り返り、より具体的に人間発達を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 人間の発達における定型発達を理解し、臨床場面で出会う対象者を発達という観点から理解し、多様性のある中でもそれぞれの個人の発達特徴・発達課題について考えられるようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	胎生期		
2	新生児期の発達		
3	乳児期の発達		
4	新生児期から幼児期の運動機能の発達		
5	児童期、青年期の発達		
6	成人期から老年期		
7	老年期		
8	発達検査、発達上の問題		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法・作業療法 「人間発達学」</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 80点 平常点 30点（レポート課題）20点 60点以上合格</p>	

授業概要			
臨床心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明美	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医療従事者として、現場で必要とされる臨床心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、対人援助職として対象者を個別に理解し、どのように関わっていけばいいかを考える機会とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 誰にでも起こりうる「こころの問題」を理解するために、人格理論、心理アセスメントについて学ぶ。また対象者にアプローチする方法として様々な心理療法についての知識を得る。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 対人援助職に必要な人格理論、心理アセスメント、心理療法の用語が具体的に理解できている。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	防衛機制		
2	支援のキー概念・障害受容		
3	心理アセスメント①		
4	心理アセスメント②		
5	心理療法①行動的		
6	心理療法②内面的		
7	心理療法③相談的		
8	心理療法学の倫理、職域、社会的連携		
[使用テキスト・参考文献] リハベーシック 心理学・臨床心理学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	小松 弘和	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
5		1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 造血組織，造血機構，造血幹細胞について理解する。 白血病，リンパ腫，骨髄腫といった造血器腫瘍の診断，治療を理解する。 血友病，血小板減少症といった出血性疾患及び血栓性疾患を理解する。 鉄欠乏性貧血をはじめ，代表的な貧血性疾患を理解する。 造血幹細胞移植を含め，最新の血液学の診断，治療の進歩を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療の解説</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療についての理解を深められる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	造血機構，造血幹細胞の分化，機能		
2	白血病，リンパ腫，骨髄腫		
3	出血性疾患と血栓性疾患		
4	貧血		
5	造血幹細胞移植と最新の血液学の進歩		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト： 標準理学療法学・作業療法学 内科学 第2版 医学書院 参考文献： 1. わかりやすい内科学 文光堂 2. 老年医学テキスト メディカルビュー社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60点以上合格</p>	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	堀米 秀夫	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
10	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 内科学の概念を学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 内科学の概念から内科疾患を近年の現状を踏まえながら授業を進める</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 内科学の概念を学び、リハビリテーション施行時の事前知識や対応について理解する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	内科学総論		
2	症候学		
3	循環器疾患①		
4	循環器疾患②		
5	呼吸器疾患①		
6	呼吸器疾患②		
7	消化器総論, 上部・下部消化管		
8	胃瘻・肝臓		
9	胆・膵、代謝性疾患		
10	内分泌疾患、腎・泌尿器疾患		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
整形外科学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齋木 寛	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 整形外科学は、骨、関節、筋肉、脊髄、末梢神経—運動器—の疾患とその治療を扱う、リハビリテーション学とは関連の深い学問です。整形外科の主要な疾患の症状、診断、治療を中心の講義します</p> <p>【授業全体の内容の概要】 整形外科基礎、画像診断、関節リウマチ、上下肢の関節疾患、腫瘍、感染症などについて講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 整形外科基礎および各疾患の病態、治療法について理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	代謝・内分泌疾患（骨粗鬆症）		
2	変形性疾患，神経病性関節症		
3	炎症性疾患（リウマチの1部まで）		
4	リウマチ，感染性疾患		
5	炎症性疾患，先天性疾患の一部		
6	先天性疾患，四肢循環障害		
7	壊死性疾患，腫瘍（特徴）		
8	骨・軟部腫瘍		
9	神経・筋疾患		
10	脊椎疾患		
11	脊椎疾患，側弯症		
12	変形性脊椎疾患，廃用症候群（1部）		
13	廃用症候群など		
14	炎症性疾患，腫瘍，神経疾患など		
15	整形外科全般（まとめ）		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学「整形外科学」 医学書院 参考文献：医学書院 標準整形外科学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
整形外科学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齋木 寛	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 整形外科学は、骨、関節、筋肉、脊髄、末梢神経—運動器—の疾患とその治療を扱う、リハビリテーション学とは関連の深い学問です。整形外科の主要な疾患の症状、診断、治療を中心の講義します</p> <p>【授業全体の内容の概要】 整形外科の基礎知識と関連事項</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 上記目的・ねらいの達成</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	骨折一般		
2	各論 (脊椎骨骨折, 骨盤骨折など)		
3	骨折 (上肢一般)		
4	下肢骨折一般		
5	脊髄損傷		
6	捻挫, 脱臼, 神経損傷 (1部)		
7	末梢神経の外傷性疾患		
8	腱・靭帯損傷, スポーツ障害		
9	腱・靭帯損傷, スポーツ障害		
10	スポーツ障害, 各論		
11	スポーツ障害, 熱傷		
12	切断 (原因, 切断の実際)		
13	義手, 義足 (種類, 構造)		
14	整形外科後期全般まとめ (外傷性疾患, 脊椎疾患など)		
15	外傷一般など		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学「整形外科学」 医学書院 参考文献：医学書院 標準整形外科学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
神経内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重 香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	2(30)	2年 後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 神経系の基礎的な理解を深め、正常な神経の働きとそれに関連する疾患について学ぶことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 神経内科学の基礎知識と関連事項</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 神経内科の理解に必要な基本的事項を習得する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	序論		
2	神経学的診断法		
3	神経学徴候学①		
4	神経学徴候学②		
5	神経学徴候学③		
6	神経学徴候学④		
7	神経学徴候学⑤		
8	神経学徴候学⑥		
9	神経疾患各論①		
10	神経疾患各論②		
11	神経疾患各論③		
12	神経疾患各論④		
13	神経疾患各論⑤		
14	神経疾患に多い合併症		
15	総まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学		定期試験, 60 点以上合格	

授業概要			
精神医学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 亮	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得</p> <p>[授業全体の内容の概要] 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得の仕方と現場で伝える手法とその原理を分かりやすく講義する</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	精神症状学 1		
2	精神症状学 2		
3	統合失調症・妄想性障害 1		
4	統合失調症・妄想性障害 2		
5	統合失調症・妄想性障害 3		
6	気分 (感情) 障害 1		
7	気分 (感情) 障害 2		
8	てんかん 1		
9	てんかん 2		
10	神経症・ストレス関連障害・身体表現性障害 1		
11	神経症・ストレス関連障害・身体表現性障害 2		
12	国試テスト 1		
13	国試テスト 2		
14	国試テスト 3		
15	前期まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
精神医学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 亮	有
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得の仕方と 現場で伝える手法とその原理を分かりやすく講義する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	パーソナリティ障害		
2	薬物・アルコール依存 1		
3	薬物・アルコール依存 2		
4	器質性・症状性精神障害		
5	老年期精神障害		
6	児童・青年期の精神障害 1		
7	児童・青年期の精神障害 2		
8	児童・青年期の精神障害 3		
9	摂食障害・その他		
10	精神科治療総論 1		
11	精神科治療総論 2		
12	精神科治療総論 3		
13	国試テスト対策 1		
14	国試テスト対策 2		
15	後期まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第 4 版増補版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60 点以上合格.</p>	

授業概要			
小児科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 理学・作業療法を行う上で、必要な小児科学の知識を学び、現場での総合的な判断力を養う</p> <p>[授業全体の内容の概要] 小児科の基礎知識と関連事項</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 上記、目的・ねらいの達成</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	小児科学総論①		
2	小児科学総論②		
3	小児科学総論③+診断と治療		
4	新生児・未熟児総論		
5	先天異常と遺伝病①		
6	先天異常と遺伝病②		
7	神経・筋・骨系疾患①		
8	神経・筋・骨系疾患②		
9	循環器疾患		
10	呼吸気疾患		
11	感染症・消化器疾患①		
12	感染症・消化器疾患②内分泌・代謝疾患		
13	血液疾患, 免疫・アレルギー疾患他		
14	腎, 腫瘍性疾患他 (テスト範囲の説明)		
15	試験解説, 講義の総括・補足		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学 小児科学/医学書院		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上合格.	

授業概要			
老年学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 老年学の概念を学ぶ 【授業全体の内容の概要】 老年学の概念，基礎知識を学び，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 老年学の概念，基礎知識を習得し，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を理解する			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	序説～老化，加齢変化①生理機能		
2	加齢変化②運動機能，精神心理面 高齢者へのアプローチ／人口動態		
3	高齢者の機能評価①		
4	高齢者の機能評価②		
5	退院支援，老年症候群各論①		
6	老年症候群②		
7	循環器疾患		
8	呼吸器疾患		
9	消化器疾患		
10	骨・運動器疾患		
11	神経疾患，精神疾患		
12	神経疾患，精神疾患，内分泌代謝疾患		
13	血液・免疫疾患，腎・泌尿器疾患		
14	皮膚・口腔疾患，感染症 試験について		
15	試験解説 耳鼻咽喉疾患，眼疾患，ほか補足		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 老年学／医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
リハビリテーション医学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	矢野 義人	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 【授業全体の内容の概要】 リハビリテーションを医師の立場からわかりやすく説明・講義する。臨床の各論としてリハプログラム、脳卒中や脊髄損傷、脳性麻痺などの中枢疾患から末梢神経損傷や切断、心疾患、呼吸器疾患、癌までの具体的な疾患に関して、評価から治療・訓練を特徴的疾患と共に説明・講義する。 【授業終了時の達成課題 (到達目標)】			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーション医学概論		
2	ADL,ICF		
3	廃用症候群		
4	高次脳機能障害		
5	嚥下機能障害		
6	排尿障害		
7	排便障害		
8	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準リハビリテーション医学 参考文献：リハビリテーション医学 (PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎)		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要																					
薬理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																		
	講義	齋木 寛	有																		
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択																		
8	1(15)	2年・後期	必修																		
<p>【授業の目的・ねらい】 【授業全体の内容の概要】 本講義では理学療法士や作業療法士において必要な薬理学の知識習得を目的として、指定テキストの内容に準じて講義を進めます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても助言等を加えながら随時補足していきます。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 その他①在学中に「一次救命講習 (CPR と AED)」の受講を推奨します。②読書の励行,図書館 (校内・他大学・公共)の利用を推奨します。③医療従事者として (喫煙者は)「禁煙」を推奨します。</p>																					
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬理学総論 (薬理学の概要)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>薬理学総論 (薬の体内動態と薬理作用)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>薬理学総論 (薬物療法の基礎)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>臨床薬理学 (神経疾患・神経疾患の薬物療法)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>臨床薬理学 (循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の薬物療法)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>臨床薬理学 (疼痛の制御・注意すべき薬物)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>重要事項の確認 (要点 check)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>科目試験解説および総括</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1	薬理学総論 (薬理学の概要)	2	薬理学総論 (薬の体内動態と薬理作用)	3	薬理学総論 (薬物療法の基礎)	4	臨床薬理学 (神経疾患・神経疾患の薬物療法)	5	臨床薬理学 (循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の薬物療法)	6	臨床薬理学 (疼痛の制御・注意すべき薬物)	7	重要事項の確認 (要点 check)	8	科目試験解説および総括
回	内容・備考																				
1	薬理学総論 (薬理学の概要)																				
2	薬理学総論 (薬の体内動態と薬理作用)																				
3	薬理学総論 (薬物療法の基礎)																				
4	臨床薬理学 (神経疾患・神経疾患の薬物療法)																				
5	臨床薬理学 (循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の薬物療法)																				
6	臨床薬理学 (疼痛の制御・注意すべき薬物)																				
7	重要事項の確認 (要点 check)																				
8	科目試験解説および総括																				
<p>【使用テキスト・参考文献】 内山, 他「薬理学・臨床薬理学 第1版」医歯薬出版 資料配布や文献紹介を随時加えます。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>																			

授業概要			
栄養学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	山川 雄士	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人にとって不可欠な「食べる」という行為を、栄養という面からとらえることで健康と職に対する理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 栄養素の構造と機能を理解するために化学的な基礎知識と消化と吸収を理解するために人体の構造と機能を解剖学的・生理学的に学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 健康の維持及び疾病の予防と栄養の関連を理解し説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	栄養学総論		
2	蛋白質とアミノ酸		
3	糖質と脂質		
4	ビタミン エネルギー代謝		
5	消化と吸収		
6	運動と栄養 リハビリと栄養		
7	主な病態の栄養管理		
8	静脈・経腸栄養 まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 「リハベーシック 生化学・栄養学」医歯薬出版		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
健康支援学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	2(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 救急救命や予防領域に関する基礎的知識の習得を目的とする。また作業療法の観点から健康について考え、心理面や行動療法についても理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 救急救命や予防領域の基礎知識について講義・演習・グループワークを行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 健康に関して様々な側面から考え、説明することができる。救急救命についての基礎的知識、技術が習得できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	健康とは 生活習慣病における行動療法について①		
2	生活習慣病予防における行動療法について②		
3	予防について		
4	運動による予防		
5	栄養による予防		
6	介護予防		
7	職場での予防		
8	感染症予防		
9	一次救命処置 講義		
10	一次救命処置 演習①		
11	一次救命処置 演習②		
12	心理行動と健康支援		
13	国家試験対策 (健康支援学)		
14	国家試験対策 (健康支援学)		
15	総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 リハビリテーション基礎講座 予防学 医歯薬出版 配布資料</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
リハビリテーション概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 多職種連携の重要性を理解し,チーム医療の一端を担う専門職としての自覚を持つこと.また,リハビリテーションの概念(自立支援・就労支援)を知り,地域医療・地域包括ケアシステムなどに対応するための基盤づくりを目的とする.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義形式にて,リハビリテーションの概念から臨床までの基礎知識を学ぶ.</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <ol style="list-style-type: none"> リハビリテーションの概念が説明できる. 健康・疾病・障害と「国際生活機能分類 (ICF)」について理解できる. 地域包括ケアシステムについて理解できる. 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーションの定義・歴史		
2	ノーマライゼーション・自立生活 (IL)		
3	総合リハビリテーション		
4	国際疾病分類 (ICD)		
5	国際障害分類 (ICIDH)と国際生活機能分類 (ICF)		
6	患者・障害者の心理 障害受容 心理的葛藤		
7	関連職種とその役割		
8	チームアプローチ (多職種連携の理解)		
9	リハビリテーションの分野		
10	ADL,QOL の概念と評価法		
11	地域リハビリテーションと社会資源, 在宅ケア		
12	地域包括ケアシステム		
13	地域包括ケアシステムの実践①		
14	自立支援		
15	まとめ		
[参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
川手信行: 図解でわかる リハビリテーション 中央法規出版株式会社		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
理学療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	渋澤 里香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法および理学療法士について学習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 理学療法の定義・理学療法士の業務内容について講義する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 理学療法・理学療法士について理解することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	理学療法の定義と理学療法士について		
2	理学療法の実際Ⅰ (筋力増強訓練)		
3	理学療法の実際Ⅱ (関節化動悸訓練)		
4	理学療法の実際Ⅲ (トランスファー)		
5	理学療法の実際Ⅳ (心臓・呼吸器)		
6	理学療法の実際Ⅴ (内部疾患)		
7	理学療法の実際Ⅵ (物理療法)		
8	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 テキストは使用しない。		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
言語療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	野津 清	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士として活躍するために,知っておかなければならない言語聴覚療法の医療的知識や医療者としての取り組み姿勢を学修する.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「障害を診ずして障害者を診よ」.社会的な視野を持ち,人と向き合う作業療法士になるためには,幅広い知識が必要です.この講義では,脳卒中による言語機能障害や嚥下障害,聴覚の障害等における様々な知識と技術を,学生目線でわかりやすく講義致します.</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 受講し修得した医術や考え方を,臨床 (患者のケア) にどう活かすかをイメージできるようになる.そして,3年後の自分の姿を想像し,障害部位や機能だけを診るのではなく,それに苦しむ“人”を診る作業療法士になるために必要なことは何かを考えることができる.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	高次脳機能障害 ～概論～		
2	高次脳機能障害 ～失行・失認～		
3	高次脳機能障害 ～失語症①～		
4	高次脳機能障害 ～失語症②～		
5	構音障害・吃音		
6	聴覚障害 ～聴覚障害者とのコミュニケーション/手話～		
7	嚥下障害		
8	職業”作業療法士”として生きる		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト：なし (A4 ファイルをご用意ください) 参考文献：「言語聴覚療法 臨床マニュアル」 協同医書出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格</p>	

授業概要			
保健医療福祉概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	松木平 和人	有
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士として必要な医療制度や社会福祉に関する基礎知識を習得し、チーム医療における役割の理解を目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉・社会保障・社会保険の違いについて理解し、わが国における具体的な制度についての理解を深める。また作業療法士に関連する社会福祉について、グループワークも交えて相互理解を図る。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 社会保障制度について種類・特徴の説明ができる。 社会保険（医療保険・介護保険）の説明ができる。 対象者の自己実現に向けた、保健・医療・福祉の連携について説明ができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション なぜ保健医療福祉を学ぶか		
2	社会福祉の歴史①		
3	社会保障の種類と特徴		
4	社会保険制度について①（医療保険制度）		
5	社会保険制度について②（医療保険制度）		
6	社会保険制度について③（介護保険制度）		
7	社会保険制度について④（介護保険制度）		
8	公的扶助制度について		
9	保健制度について		
10	公衆衛生制度について		
11	障害者基本法について		
12	障害者総合支援法について		
13	障害者雇用促進法について		
14	総復習		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 参考文献： 配布資料を使用</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験 60 点以上合格。</p>	

授業概要			
多職種連携論 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	木立美由紀・安部美和・吉野孝弘・佐名木めぐみ・廣瀬達也・松木平和人・富高史裕
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 多職種連携とは、多職種連携教育とは何かを考えられることが目的である。患者を包括的に支援するためには他職種がどのような役割の中で業務を遂行しているのかを知る必要がある。作業療法士が作業療法士であるために他職種に歩み寄り、互いの職種を尊重できる姿勢を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義・演習・発表を行う。多職種の役割を文献を通じて調べアウトプットする機会を設ける。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 多職種連携とは何かを自らが調べ解釈することができる。 他職種と歩み寄るための姿勢・心構えを培うことができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	多職種連携とは(多職種連携教育について)・専門性と一般性		
2	多職種連携における阻害要因・ICFで見える専門性の違い・チーム・ビルディングの基礎と理論		
3	他の専門職と専門性について理解する		
4	他職種の役割①		
5	他職種の役割②		
6	多職種連携に必要なコミュニケーション能力		
7	多職種連携学習①		
8	多職種連携学習②		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準作業療法学 地域作業療法学第4版 医学書院 作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 一般社団法人 日本作業療法士協会</p> <p>ラーニングシリーズ IP 保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践③はじめての IP 連携を学びはじめる人のための IP 入門</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格</p>	

授業概要			
多職種連携論Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	木立美由紀・安部美和・吉野孝弘・佐名木めぐみ・廣瀬達也・松木平和人・冨高史裕
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士が作業を中心とした実践をするためには、作業療法がどのような思考過程を経て計画を立案しているかを他職種と共有する必要がある。前期で養った他職種と尊重し合う姿勢を養ったところで、生活行為向上マネジメント（以下MTDLP）を用いた演習を中心に作業療法の臨床思考過程を養い、それを他者に説明する経験を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 MTDLPに関する講義・演習・事例検討を中心に行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 MTDLPの概要を理解し、ツールを使い、他者に説明することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	MTDLP 講義		
2	MTDLP 演習		
3	MTDLP 事例検討①		
4	MTDLP 事例検討②		
5	MTDLP 事例検討③		
6	MTDLP 事例検討④		
7	多職種連携学習①		
8	多職種連携学習②		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準作業療法学 地域作業療法学第4版 医学書院 作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 一般社団法人 日本作業療法士協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60点以上合格</p>	

授業概要			
作業療法概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 本授業を通して、作業療法とは何かを考え、作業療法士の役割について理解する。その為、基礎となる哲学・概念・歴史を知り、身体・精神・高齢期などの各専門領域についても理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を学ぶために、作業療法の成り立ちや、各領域における役割を、講義や演習を通して理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 作業療法に関心を持ち、作業療法に関する知識を得ようと努力することができる。作業療法とは何かを説明し、議論しあうことができる。作業療法の評価から治療に至る流れを説明できる。分野ごとの作業療法の役割と内容を理解することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法とは		
2	作業療法の歴史と原理		
3	作業療法に関連する予備知識		
4	作業療法の実践現場		
5	作業の分析と治療への適用		
6	作業療法の実践課程①		
7	作業療法の実践課程②		
8	身体機能分野における作業療法の実際		
9	精神機能分野における作業療法の実際		
10	発達過程分野における作業療法の実際		
11	高齢期分野における作業療法の実際		
12	作業療法部門の管理運営		
13	生活行為向上マネジメント (MTDLP)		
14	国家試験対策 (作業療法概論)		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準作業療法学 作業療法学概論 第4版 医学書院		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要																																			
基礎作業学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																																
	講義	木立 美由紀・小泉 恵・講神 充代	有																																
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択																																
15	1(30)	1年・前期	必修																																
<p>【授業の目的・ねらい】 対象者の作業を提案できるようになるため、作業が治療として成り立つ要件、治療法について実践を交えて理解する。生活に焦点化した作業療法を計画するために理論を学び、作業分析を通じて作業の意味・要素・機能を考察できる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業とは何かを理解し、作業分析を通じて作業活動を実践し、作業の特性を理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対象者に合わせた作業を考え、その作業について分析し説明できる。</p>																																			
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ヒトと作業 作業の分類</td></tr> <tr><td>2</td><td>作業分析</td></tr> <tr><td>3</td><td>作業分析演習①さをり織</td></tr> <tr><td>4</td><td>作業分析演習②さをり織</td></tr> <tr><td>5</td><td>作業分析演習③さをり織</td></tr> <tr><td>6</td><td>作業分析演習④さをり織</td></tr> <tr><td>7</td><td>包括的分析①</td></tr> <tr><td>8</td><td>限定的分析</td></tr> <tr><td>9</td><td>作業療法理論について</td></tr> <tr><td>10</td><td>作業療法小範囲理論①</td></tr> <tr><td>11</td><td>作業療法小範囲理論②</td></tr> <tr><td>12</td><td>作業療法中範囲理論</td></tr> <tr><td>13</td><td>作業療法大範囲理論</td></tr> <tr><td>14</td><td>作業療法メタ理論</td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習</td></tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1	ヒトと作業 作業の分類	2	作業分析	3	作業分析演習①さをり織	4	作業分析演習②さをり織	5	作業分析演習③さをり織	6	作業分析演習④さをり織	7	包括的分析①	8	限定的分析	9	作業療法理論について	10	作業療法小範囲理論①	11	作業療法小範囲理論②	12	作業療法中範囲理論	13	作業療法大範囲理論	14	作業療法メタ理論	15	総復習
回	内容・備考																																		
1	ヒトと作業 作業の分類																																		
2	作業分析																																		
3	作業分析演習①さをり織																																		
4	作業分析演習②さをり織																																		
5	作業分析演習③さをり織																																		
6	作業分析演習④さをり織																																		
7	包括的分析①																																		
8	限定的分析																																		
9	作業療法理論について																																		
10	作業療法小範囲理論①																																		
11	作業療法小範囲理論②																																		
12	作業療法中範囲理論																																		
13	作業療法大範囲理論																																		
14	作業療法メタ理論																																		
15	総復習																																		
<p>【使用テキスト・参考文献】 【使用テキスト】 濱口豊太：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版（電子版）株式会社 医学書院</p> <p>【参考文献】 「さをり織 好きに好きに織る」ぶどう社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>																																	

授業概要			
基礎作業学実習 I (革細工)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	森下 章生・安部 美和	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法のアクティビティの一つである革細工について、その作業技術を理解し習得する。対象者に対し適切な作業を選択できるように学習する。作業に必要な用具、材料についても学び、活動がスムーズに行えるようにしたい。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 革細工での作品作りを行い、作業活動の一つである「革細工」の方法、道具などを知る。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 革細工で作品を作り、そのために必要な道具やその工程を理解することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法における革細工の概要・革細工に必要な用具、材料について名称と使用法を理解する		
2	革細工技法を習得する。(スタンピング法) コインケースの製作を通して。		
3	革の染色法を習得する。(色差し染め, 拭き染め)		
4	革細工技法を習得する。(カービング法) 三つ折りキーケースの製作を通して。		
5	革の染色法 (アンティック染め) を習得する。		
6	仕立ての学習 (金具のつけ方など) を習得する。		
7	穴あけ, かがり方を習得する。		
8	プレスレットの製作 (習得技術の応用)・革の立体造形。(花ブローチもしくは動物マスコットの製作)		
[使用テキスト・参考文献] プリント配布		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60点以上合格 作品提出	

授業概要			
基礎作業学実習 I (陶芸)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	滝川 幸志・安部 美和
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業の一つの特性を持つ陶芸作業を体験することで、作業学を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 陶芸の作業手順通りに授業を進め、最終的に作品として焼成するまで行うことにより、基礎的な陶芸の知識と技術を得るとともに、作品を完成させる達成感を得ることも目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	土練り・手びねり		
2	ひも作り・ロクロ		
3	たたら作り		
4	手びねり ひも作り 仕上げ		
5	素焼き窯出し 下絵付け,		
6	釉掛け 本焼き窯づめ,		
7	本焼き窯だし 陶芸概論		
8	七宝		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格. 作品提出	

授業概要			
日常生活活動学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	松木平 和人	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 日常生活活動（手段的日常生活動作を含む）の概念を知り、日常生活活動に対する基本的な作業療法について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 日常生活活動学の概念について講義を実施。また評価のスケールである Barthel Index, 機能的自立度評価（FIM）及び疾患別の支援方法について演習を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動（手段的日常生活動作を含む）の概念について理解する ・日常生活活動（手段的日常生活動作を含む）の評価について説明できる ・日常生活活動（手段的日常生活動作を含む）における支援について説明及び模擬実践ができる 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション,日常生活活動とは①（概念,なりたち）		
2	日常生活活動とは②（基本的日常生活動作と手段的日常生活動作）		
3	基本的日常生活動作①（食事,排泄,更衣）		
4	基本的日常生活動作②（整容,入浴,移動）		
5	手段的日常生活動作①（調理,洗濯,掃除）		
6	手段的日常生活動作②（金銭管理,その他）		
7	日常生活活動評価①（FIM）		
8	日常生活活動評価②（FIM）演習		
9	日常生活活動評価③（BI）		
10	日常生活活動評価④（IADLの評価）		
11	疾患別の支援方法①（脳血管疾患）		
12	疾患別の支援方法②（呼吸器疾患・整形疾患）		
13	日常生活と装具・福祉用具・住環境		
14	日常生活活動とは③（総復習）		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 「標準作業療法学 専門分野 日常生活活動学・社会生活行為学 第2版」 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
作業療法研究法	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法という専門職の研究・発展に必要な研究基礎知識を特に量的研究と質的研究の両者から学びます。すでに発表された研究論文の読み方など研究の実際を学習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を行っていくうえでは、根拠をしめしたうえで実施していくことが必要となってくる。その根拠を見出すうえで必要な研究の成り立ちやその方法について教授する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 卒業研究の実施に必要な知識を学ぶ，研究が作業療法の発展に必要なことを理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	なぜ，作業療法士に研究は必要なのか		
2	研究にかかわる基礎知識		
3	研究とは，研究の心構え		
4	研究の流れ・目的・研究計画書		
5	倫理の一般原則，インフォームドコンセント		
6	研究の種類		
7	研究の進め方		
8	文献レビューⅠ		
9	文献レビューⅡ		
10	研究論文の発表と手続き		
11	読まれる文章の書き方		
12	卒論聴講		
13	卒論聴講		
14	まとめ総復習		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法 第2版 編集 山田孝 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
作業療法管理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	松木平 和人	有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	2(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 対象者に質の高い作業療法が提供できるように記録や設備・物品などの環境管理, リスク管理について学ぶ。また,組織の一員としてのマネジメント能力を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法における管理運営,職業倫理について講義形式及びグループディスカッションを実施。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法における法令,諸制度について理解する ・作業療法における多職種との関わりについて理解する ・作業療法におけるマネジメントについて理解する 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・社会保障制度とは		
2	作業療法における法令及び諸制度①(医療分野)		
3	作業療法における法令及び諸制度②(介護分野)		
4	その他の法令及び諸制度		
5	作業療法士の職業倫理		
6	業務マネジメント①(組織,療法士)		
7	業務マネジメント②(時間,ストレス,ハラスメント)		
8	業務マネジメント③(情報・記録)		
9	リスクマネジメント①(インシデント・アクシデント)		
10	リスクマネジメント②(感染対策・クレーム対応)		
11	作業療法臨床実習に必要な学生の資質①(グループディスカッション・発表)		
12	作業療法臨床実習に必要な学生の資質②(グループディスカッション・発表)		
13	多職種連携と地域連携		
14	作業療法士としての今後の展望①(職域拡大)		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 「標準理学療法・作業療法・言語聴覚障害学 別巻 リハビリテーション管理学」 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
作業療法評価学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 具体的な評価方法を学ぶ前に、評価の意義を理解することで必要な評価項目を選択し、正確に実行することの大切さを知る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 評価の意義・目的・手順・種類等、評価の基礎（総論）を学ぶ。バイタルチェックや面接法・形態計測は実技を交えて学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の意義・目的・手順・種類を理解する ・バイタルチェック・面接・意識の評価・形態計測を行えるようになる 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	評価学総論（評価とは）		
3	作業療法過程		
4	目標・統合と解釈		
5	問題点の抽出（ICF・ICIDH・MTDLP）		
6	作業科学		
7	作業科学		
8	面接と観察		
9	意識の評価		
10	意識の評価		
11	バイタルサインの測定		
12	形態計測		
13	形態計測		
14	まとめ		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
共通作業療法評価学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 領域共通の評価項目について知る.</p> <p>[授業全体の内容の概要] 身体障害作業療法で実施する共通の評価項目について、意義・目的・方法・注意点などについて学ぶ.</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 意義・目的・評価方法について説明できる.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	関節可動域測定 (座学)		
2	関節可動域測定 (実技)		
3	関節可動域測定 (実技)		
4	関節可動域測定 (実技)		
5	関節可動域測定 (実技)		
6	関節可動域測定 (実技)		
7	筋力検査		
8	筋力検査		
9	知覚検査		
10	筋緊張検査		
11	反射検査		
12	協調性検査		
13	脳神経検査		
14	まとめ		
15	フィードバック		
<p>[使用テキスト・参考文献] 岩崎 テルコ 他：標準作業療法学 作業療法評価学 第4版. 医学書院 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
身体障害作業療法評価学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 身体障害領域で主に必要な評価の意義を知ること、臨床現場で症例に必要な評価項目を選択することができるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を行う上では、面接・観察・検査・測定により対象者の全体像を把握できなければならない。本講義を通して主に身体領域の作業療法に必要な評価項目の意義と方法を中心に学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 身体障害領域で主に必要な評価の意義を述べることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	画像 (脳画像以外)		
3	摂食・嚥下機能検査		
4	上肢機能検査, 評価まとめ		
5	片麻痺機能検査 (脳血管障害の評価)		
6	片麻痺機能検査 (脳血管障害の評価)		
7	姿勢反射検査		
8	動作分析の基本		
9	疾患別動作分析		
10	症例検討		
11	症例検討		
12	ケースレポートの書き方 (まとめ)		
13	統合と解釈 (実践)		
14	評価まとめ		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
臨床作業療法評価学演習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	松木平 和人・安部 美和・吉野 孝弘	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 身体障害領域で主に必要な評価の目的を理解した上で、評価の方法を身に付ける、安全・正確かつ効率的に行えるようになる。評価の結果を正しく解釈する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 主に身体領域の作業療法で最低限必要となる評価項目について、安全・正確かつ効率的に行えるよう指導のもと、学生同士で交代しながら評価を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 身体障害領域で主に必要な評価を行うことができる。 評価の結果を正しく解釈することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・ROM測定：上肢		
2	ROM測定：体幹・頸部		
3	MMT：肩・肩甲帯		
4	MMT：肘・前腕		
5	MMT：肘・前腕		
6	MMT：手・手指		
7	MMT：手・手指		
8	MMT：上肢まとめ		
9	MMT：股		
10	MMT：股		
11	MMT：膝・足		
12	MMT：膝・足		
13	MMT：下肢まとめ		
14	総復習		
15	総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」 医学書院 新・徒手筋力検査法 原著第10版 共同医書 PT・OTのための臨床技能とOSCE 金原出版株式会社 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 実技試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
臨床作業療法評価学演習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	松木平 和人・安部 美和・吉野 孝弘
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 身体障害領域で主に必要な評価の目的を理解した上で、評価の方法を身に付ける、安全・正確かつ効率的に行えるようになる。評価の結果を正しく解釈する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 主に身体領域の作業療法で最低限必要となる評価項目について、安全・正確かつ効率的に行えるよう指導のもと、学生同士で交代しながら評価を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 身体障害領域で主に必要な評価を行うことができる。 評価の結果を正しく解釈することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	腱反射		
2	腱反射		
3	表在反射・病的反射		
4	表在反射・病的反射		
5	脳神経検査		
6	脳神経検査		
7	片麻痺機能検査		
8	片麻痺機能検査		
9	片麻痺機能検査		
10	片麻痺機能検査		
11	知覚検査		
12	知覚検査		
13	総復習		
14	総復習		
15	フィードバック		
<p>[使用テキスト・参考文献] 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」 医学書院 新・徒手筋力検査法 原著第10版 共同医書 PT・OTのための臨床技能とOSCE 金原出版株式会社 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 実技試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
精神作業療法評価学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 評価の実際を理解する.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 精神科作業療法で実施する一般的な評価についての知識と方法を学ぶ.</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 評価方法について説明できる.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法と評価		
2	精神機能作業療法評価学の基礎		
3	面接法		
4	質問紙法		
5	観察法		
6	行動観察		
7	実験的観察法		
8	集団評価法		
9	日常生活技能評価法		
10	検査法①		
11	検査法②		
12	検査法③		
13	疾患別評価①		
14	疾患別評価②		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト】 標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 2024 年度版 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 ①レポート(50点：S50点,A40点,B30点,C20点の4段階 評価. 提出期限の厳守, 内容判断) ②発表・取り組み姿勢 10点 ③筆記試験 40点 ①～③の合計で 60点以上が合格</p>	

授業概要																																			
高次脳作業療法評価学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																																
	講義	富高 史裕	有																																
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択																																
15	1(30)	2年・前期	必修																																
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>① 高次脳機能障害で使用する評価について学ぶ ② 高齢・障害における移動支援について学ぶ(自動車運転等)</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>① 高次脳機能障害の評価表を使用する (事前にマニュアルを読む) ② 地域の特徴・障害に合わせた移動支援の方法について</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <p>① 高次脳機能障害を評価する際に適切な評価を選択できる. ② 移動支援の特徴を理解し必要性について説明できる.</p>																																			
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>高次脳機能障害とは</td></tr> <tr><td>2</td><td>高次脳機能障害の評価法 (高次脳における脳画像評価)</td></tr> <tr><td>3</td><td>注意障害と意識障害とは</td></tr> <tr><td>4</td><td>注意障害と意識障害の評価方法</td></tr> <tr><td>5</td><td>半側空間無視 (劣位半球における失認) とは</td></tr> <tr><td>6</td><td>半側空間無視 (劣位半球における失認) の評価方法</td></tr> <tr><td>7</td><td>認知の評価方法</td></tr> <tr><td>8</td><td>自動車運転における作業療法①</td></tr> <tr><td>9</td><td>自動車運転における作業療法②</td></tr> <tr><td>10</td><td>記憶障害の評価</td></tr> <tr><td>11</td><td>言語障害の評価</td></tr> <tr><td>12</td><td>思考障害の評価・問題解決の評価</td></tr> <tr><td>13</td><td>行為・行動の障害の評価</td></tr> <tr><td>14</td><td>遂行機能障害の評価</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ・振り返り</td></tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1	高次脳機能障害とは	2	高次脳機能障害の評価法 (高次脳における脳画像評価)	3	注意障害と意識障害とは	4	注意障害と意識障害の評価方法	5	半側空間無視 (劣位半球における失認) とは	6	半側空間無視 (劣位半球における失認) の評価方法	7	認知の評価方法	8	自動車運転における作業療法①	9	自動車運転における作業療法②	10	記憶障害の評価	11	言語障害の評価	12	思考障害の評価・問題解決の評価	13	行為・行動の障害の評価	14	遂行機能障害の評価	15	まとめ・振り返り
回	内容・備考																																		
1	高次脳機能障害とは																																		
2	高次脳機能障害の評価法 (高次脳における脳画像評価)																																		
3	注意障害と意識障害とは																																		
4	注意障害と意識障害の評価方法																																		
5	半側空間無視 (劣位半球における失認) とは																																		
6	半側空間無視 (劣位半球における失認) の評価方法																																		
7	認知の評価方法																																		
8	自動車運転における作業療法①																																		
9	自動車運転における作業療法②																																		
10	記憶障害の評価																																		
11	言語障害の評価																																		
12	思考障害の評価・問題解決の評価																																		
13	行為・行動の障害の評価																																		
14	遂行機能障害の評価																																		
15	まとめ・振り返り																																		
<p>【使用テキスト】 標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 2026 年度版 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 期末に筆記試験を実施 60点以上を合格とする</p>																																	

授業概要			
高齢期作業療法評価学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 高齢者の加齢に伴う心身機能や、認知症、個人因子評価ができるように講義・演習を実施する。実践を通して各評価の特徴を知り、関連する国家試験問題を解くことや、作業療法の計画立案ができるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各評価技術の基盤となる理論や目的の講義、各評価用紙を用いた演習を実施する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 高齢者の加齢に伴う心身機能・認知症・個人因子の評価ができ、結果を考察することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	高齢化の進展,高齢社会の問題・老年期の特徴,生活課題 老化について 老年期の課題		
2	個人因子の評価① (各種作業療法理論)		
3	個人因子の評価② (役割・習慣等)		
4	個人因子の評価③ (興味・個人的原因帰属等)		
5	個人因子の評価④ (QOL・プロセスモデル等)		
6	サルコペニア・フレイルについて		
7	サルコペニア・フレイルの評価①		
8	サルコペニア・フレイルの評価②		
9	サルコペニア・フレイルの評価③		
10	認知症の作業療法について		
11	認知症の評価① (全般評価)		
12	認知症の評価② (中核症状評価)		
13	認知症の評価③ (BPSD 評価)		
14	認知症の評価④ (作業に焦点をあてた面接) 国家試験対策		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 山田 孝 他：臨床作業療法シリーズ 高齢期領域の作業療法 第2版 プログラム立案のポイント 認知症の作業療法・ソーシャルインクルージョンを目指して第2版 小川敬之 武田徳則 編 医歯薬出版株式会社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験 60点以上合格</p>	

授業概要			
身体障害作業療法治療学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和・吉野孝弘	有
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
30	2(60)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 この講義では、中枢神経疾患である脳血管障害および頭部外傷と、整形外科疾患である骨折・リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷、および熱傷などを取り上げて、作業療法士に必要な治療について学習する。また、作業療法士に必要な評価・治療を基礎に、ADL・治療技術を習得し、症例検討をとおして作業療法の全体の流れを把握する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 中枢神経疾患、その他疾患のリハビリテーションについて具体例を挙げ、臨床イメージがつくように進めていく。 骨折・関節リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷・熱傷を中心とした疾患のリハビリテーションを考案し、作業療法の実践について学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 中枢神経疾患の作業療法治療について、どのような方法があるか説明できる。 整形外科疾患を中心としたリハビリテーションの知識を学び、治療の流れを把握することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1,2	オリエンテーション、脳血管疾患とは・分類		
3,4	脳血管障害（症状・評価項目）		
5,6	脳血管障害（中枢性麻痺の特徴・ファシリテーションの考え方）		
7,8	脳血管障害（急性期のリハビリテーション）、		
9,10	脳血管障害（回復期・維持期のリハビリテーション）		
11,12	頭部外傷（概要）		
13,14	頭部外傷（作業療法）・総復習		
15,16	オリエンテーション、末梢神経損傷とは		
17,18	末梢神経損傷のADL（グループワークを含む）、アプローチ		
19,20	脊髄損傷とは、脊髄損傷のADL（グループワークを含む）		
21,22	脊髄損傷のアプローチ、腕神経叢麻痺とは		
23,24	腕神経叢麻痺（グループワークを含む）、腕神経叢麻痺のアプローチ		
25,26	関節リウマチとは、関節リウマチのADL（グループワークを含む）		
27,28	関節リウマチのアプローチ、火傷・腱損傷・その他		
29,30	総復習、フィードバック		
【使用テキスト・参考文献】 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 脳卒中最前線 第4版 医歯薬出版株式会社 配布プリント		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験、60点以上合格。	

授業概要			
作業療法治療学（その他疾患）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法の対象になることの多いパーキンソン病・脊髄小脳変性症などの神経疾患への作業療法を知る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各疾患について、症状などの概要と、必要となる評価項目や作業療法治療について学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患と評価・治療をつなげて考えられるようになる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	パーキンソン病（概要・評価）		
3	パーキンソン病（治療）		
4	脊髄小脳変性症（概要・評価）		
5	脊髄小脳変性症（治療）		
6	筋萎縮性側索硬化症		
7	ギランバレー症候群		
8	多発性硬化症		
9	重症筋無力症		
10	心疾患		
11	呼吸器疾患		
12	糖尿病		
13	悪性腫瘍		
14	ターミナルケア		
15	総復習		
[使用テキスト・参考文献] 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60%以上合格。	

授業概要																																			
精神作業療法治療学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																																
	講義	木立 美由紀	有																																
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択																																
15	1(30)	2年・前期	必修																																
<p>【授業の目的・ねらい】 精神科作業療法の役割と評価・アプローチ法を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 精神障害に対する医療の歴史、障害の捉え方、作業療法が果たす役割、治療構造、作業療法の流れを学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 1. 生活障害について説明できる。 2. 認知機能障害について説明できる。 3. アプローチ法が理解できる。</p>																																			
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>精神保健医療福祉の動向と作業療法士の役割</td></tr> <tr><td>2</td><td>作業療法実践の基本的視点 I</td></tr> <tr><td>3</td><td>作業療法実践の基本的視点 II</td></tr> <tr><td>4</td><td>急性期作業療法の考え方と実際</td></tr> <tr><td>5</td><td>退院支援の考え方と実際</td></tr> <tr><td>6</td><td>地域生活支援のあり方と実際</td></tr> <tr><td>7</td><td>就労支援</td></tr> <tr><td>8</td><td>薬物療法</td></tr> <tr><td>9</td><td>認知行動療法 I</td></tr> <tr><td>10</td><td>認知行動療法 II</td></tr> <tr><td>11</td><td>認知行動療法 III</td></tr> <tr><td>12</td><td>認知機能障害における作業療法</td></tr> <tr><td>13</td><td>認知機能障害における作業療法</td></tr> <tr><td>14</td><td>家族療法</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td></tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1	精神保健医療福祉の動向と作業療法士の役割	2	作業療法実践の基本的視点 I	3	作業療法実践の基本的視点 II	4	急性期作業療法の考え方と実際	5	退院支援の考え方と実際	6	地域生活支援のあり方と実際	7	就労支援	8	薬物療法	9	認知行動療法 I	10	認知行動療法 II	11	認知行動療法 III	12	認知機能障害における作業療法	13	認知機能障害における作業療法	14	家族療法	15	まとめ
回	内容・備考																																		
1	精神保健医療福祉の動向と作業療法士の役割																																		
2	作業療法実践の基本的視点 I																																		
3	作業療法実践の基本的視点 II																																		
4	急性期作業療法の考え方と実際																																		
5	退院支援の考え方と実際																																		
6	地域生活支援のあり方と実際																																		
7	就労支援																																		
8	薬物療法																																		
9	認知行動療法 I																																		
10	認知行動療法 II																																		
11	認知行動療法 III																																		
12	認知機能障害における作業療法																																		
13	認知機能障害における作業療法																																		
14	家族療法																																		
15	まとめ																																		
<p>【使用テキスト・参考文献】 矢谷 令子・他：標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版. 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>																																	

授業概要			
精神作業療法治療学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 精神系作業療法に関する技法を体験することによって治療計画の立案の一助とする。疾患・障害特性に応じた作業療法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 精神系作業療法に関連する技法を体験する。また、講義形式にて疾患・障害特性に応じた作業療法を学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患・障害特性に応じた作業療法を説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	統合失調症の作業療法		
2	統合失調症の作業療法		
3	気分障害の作業療法		
4	気分障害の作業療法		
5	人格障害の作業療法		
6	神経症性障害		
7	ストレス関連障害および身体表現性障害		
8	発達障害の作業療法		
9	摂食障害の作業療法		
10	アルコール依存症の作業療法		
11	就労支援における作業療法		
12	地域生活支援における作業療法		
13	司法精神医療における作業療法		
14	症例検討 (MTDLP)		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 矢谷 令子・他：標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版、医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験 60点以上合格。</p>	

授業概要			
小児作業療法治療学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	小西 由夏	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 発達に配慮が必要な子どもたちに対して作業療法はどんな視点からアプローチができるか知ってもらう。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義と実技を取り入れながら,具体的に理解してもらえるように授業を工夫していく予定です。また,実際の現場での話や映像をお伝えして,臨床のイメージを高めてもらえるようにしていきます。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 臨床的思考過程を学ぶための基礎知識を身につける。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	発達期の作業療法 (概論)		
2	発達期の評価 (復習)		
3	発達課題と作業療法		
4	知的能力障害		
5	脳性麻痺 (1)		
6	脳性麻痺 (2)・重症心身障害		
7	実技 寝返り動作分析 実習室使用		
8	身体障がい ICFまとめ (1) (GW)		
9	身体障がい ICFまとめ (2) (GW)		
10	神経発達症群 (1)		
11	神経発達症群 (2) / 発達障がい ICFまとめ		
12	発達障がい アプローチ方法検討		
13	筋ジストロフィー,骨疾患		
14	家族支援と法制度		
15	テスト		
[使用テキスト・参考文献] 標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版 医学書院		テスト解説	

授業概要			
高齢期作業療法治療学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 加齢に伴う心身機能、認知症、個人因子に対する作業療法介入の視点・技術を養う。また事例を通し作業療法の一連の過程を経験し、作業療法の計画立案ができるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 上記要素に対する作業療法介入について講義・演習を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記要素に対する作業療法の知識や技術を養い、作業療法評価や治療計画が立案できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	サルコペニア・フレイルに対するアプローチ①		
2	サルコペニア・フレイルに対するアプローチ②		
3	サルコペニア・フレイルに対するアプローチ③		
4	認知症に対する薬物療法・非薬物療法		
5	役割に対するアプローチ		
6	興味に対するアプローチ		
7	個人的原因帰属・習慣に対するアプローチ		
8	事例検討①（カルテ情報から評価計画立案）		
9	事例検討②（模擬動画から評価計画修正）		
10	事例検討③（評価結果から MTDLP 作成）		
11	事例検討④（評価結果から MTDLP・考察シート作成）		
12	事例検討⑤（学生間で MTDLP・考察シート発表）		
13	事例解説（教員による MTDLP 解説）		
14	国家試験対策		
15	総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 認知症の作業療法・ソーシャルインクルージョンを目指して・第2版 小川敬之 武田徳則 編 医歯薬出版株式会社 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
高次脳作業療法治療学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	石井 文康	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 【キーワード】 高次脳機能障害, 言語, 行為, 認知, 記憶 【授業全体の内容の概要】 高次脳機能障害についての臨床症状の理解を深め, 症例検討を行う。 【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 高次脳機能障害についての臨床症状の理解を深め, 症状検討を行った際に, 積極的な意見が出せる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	脳機能概論 I		
2	脳機能概論 II		
3	高次脳機能障害学概論 I		
4	高次脳機能障害学概論 II		
5	失語・失行・失認等の臨床像 I		
6	失語・失行・失認等の臨床像 II		
7	高次脳機能障害の評価・介入法 I		
8	高次脳機能障害の評価・介入法 II		
9	高次脳機能障害の評価・介入法 III		
10	高次脳機能障害の評価・介入法 IV		
11	高次脳機能障害の評価・介入法 V		
12	高次脳機能障害のまとめ I		
13	高次脳機能障害のまとめ II		
14	高次脳機能障害のまとめ III		
15	高次脳機能障害のまとめ IV		
<p>【使用テキスト・参考文献】 配布資料 矢谷令子監「高次脳機能作業療法学 第3版」医学書院 参考書籍： 石合純夫著 「高次脳機能障害学第3版」 医歯薬出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 レポート課題. 60点以上合格.</p>	

授業概要																																			
臨床作業療法治療学演習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																																
		演習	木立美由紀・安部美和・吉野孝弘・佐名木めぐみ・廣瀬達也・松木平和人・富高史裕	有																															
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択																																
15	1(30)	2年・後期	必修																																
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士を目指すために臨床現場での実践力を養う</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ①臨床実習Ⅱ・Ⅲを控えて、実習での臨床思考過程を再現するために、模擬患者で臨床場面を想定する。模擬症例からグループワークから評価の計画・実施、統合と解釈、治療計画の立案、実施までの一連のプロセスを行う ②OSCEを実施して実践能力・判断力・コミュニケーション・専門知識の応用を身に付ける</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ①実践的なスキルの習得 ②臨床判断力の向上 ③コミュニケーション能力の強化 ④専門知識の応用</p>																																			
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>臨床思考過程とは</td></tr> <tr><td>2</td><td>情報収集①</td></tr> <tr><td>3</td><td>情報収集②</td></tr> <tr><td>4</td><td>まとめ①</td></tr> <tr><td>5</td><td>評価計画立案①</td></tr> <tr><td>6</td><td>評価方法の検討</td></tr> <tr><td>7</td><td>評価実施①</td></tr> <tr><td>8</td><td>評価実施②</td></tr> <tr><td>9</td><td>評価の振り返りと記載方法・統合と解釈</td></tr> <tr><td>10</td><td>目標設定・治療計画立案</td></tr> <tr><td>11</td><td>再評価実施</td></tr> <tr><td>12</td><td>まとめ②</td></tr> <tr><td>13</td><td>OSCEの実施に向けて</td></tr> <tr><td>14</td><td>OSCEグループ演習①</td></tr> <tr><td>15</td><td>実習に向けて振り返りとこれから</td></tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1	臨床思考過程とは	2	情報収集①	3	情報収集②	4	まとめ①	5	評価計画立案①	6	評価方法の検討	7	評価実施①	8	評価実施②	9	評価の振り返りと記載方法・統合と解釈	10	目標設定・治療計画立案	11	再評価実施	12	まとめ②	13	OSCEの実施に向けて	14	OSCEグループ演習①	15	実習に向けて振り返りとこれから
回	内容・備考																																		
1	臨床思考過程とは																																		
2	情報収集①																																		
3	情報収集②																																		
4	まとめ①																																		
5	評価計画立案①																																		
6	評価方法の検討																																		
7	評価実施①																																		
8	評価実施②																																		
9	評価の振り返りと記載方法・統合と解釈																																		
10	目標設定・治療計画立案																																		
11	再評価実施																																		
12	まとめ②																																		
13	OSCEの実施に向けて																																		
14	OSCEグループ演習①																																		
15	実習に向けて振り返りとこれから																																		
<p>【使用テキスト】 eテキスト 適宜、資料配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 ①各レポート提出（個人・グループ）50点 ②実習前OSCE(50点) ①+②=100点のうち6割以上を合格とする</p>																																	

授業概要			
科目名	授業の種類	授業担当者	
義肢装具学	講義	武藤 光弘	
授業の回数	単位数 (時間数)	学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・前期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士に必要な義肢・装具の構造や機能の知識と評価法、およびリハビリテーション医療におけるプログラムのたて方を修得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 解剖学、運動学、一般医学等の知識を統合した義肢装具作業療法を学ぶために、PBL (Problem-based Learning: 問題解決型学習) 授業を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 義肢装具士、理学療法士などコメディカルとの関わりを学び、チームワークとしての連携ができる。 装具・義肢について提示された症例の適応を口頭で発表できる。 義肢・装具の基礎知識について理解し、問題を解くことができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容/授業方法			
回	内容・備考		
1	ガイダンス, 義肢装具学概論		
2	装具療法の考え方		
3	上肢装具, 疾患と適応 (目的, 分類, 評価と訓練, PBL1)		
4	上肢装具, 評価と訓練 (PBL1)		
5	上肢装具, 評価と訓練 (PBL1 発表)		
6	体幹装具, 疾患と適応 (目的, 分類, 評価と訓練, PBL2)		
7	体幹装具, 評価と訓練 (評価と訓練, PBL2 発表)		
8	下肢装具, 疾患と適応 (目的, 分類, 評価と訓練, PBL3)		
9	下肢装具, 評価と訓練 (PBL3 発表)		
10	切断と義肢 (障害の分類, 義肢の種類と適応)		
11	上肢切断, 疾患と適応 (目的, 分類, 評価と訓練, PBL4)		
12	上肢切断, 評価と訓練 (PBL4 発表)		
13	下肢切断, 疾患と適応 (目的, 分類, 評価と訓練, PBL5)		
14	下肢切断, 評価と訓練 (PBL5 発表)		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト】 ・「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学」佐伯覚 編 医学書院</p> <p>【参考文献】 ・「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学」山中武彦, 中村恵一 編 メジカルビュー社 ・「義肢装具と作業療法 評価から実践まで」大庭潤平, 西村誠次, 柴田八衣子 医歯薬出版 ・「リハビリテーション 義肢装具学」清水順一, 青木主税 編 メジカルビュー社 必要に応じてプリントを配布する。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験 (50%), 発表 (50%) で評価する。 60点以上で合格。</p>	

授業概要			
科目名 義肢装具学実習	授業の種類	授業担当者	
	実習	武藤 光弘	
授業の回数 15	単位数 (時間数) 1(30)	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 義肢装具学で学んだ知識をもとに、主に上肢の装具療法を含めた作業療法の評価、プログラムのたて方、訓練の内容について実習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 熱可塑性樹脂などによる装具の作成及び装着経験を通して、疾患別作業療法を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患、障害に合わせて適応を考え、装具療法を含めた作業療法プログラムを立てることができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	ガイダンス 装具療法に必要な解剖学的知識		
2	装具療法の基礎知識		
3	疾患別装具療法の実践 1：末梢神経障害（装具作成）		
4	疾患別装具療法の実践 1：末梢神経障害（装具作成）		
5	疾患別装具療法の実践 1：末梢神経障害（装具作成）		
6	疾患別装具療法の実践 1：末梢神経障害（装具作成）		
7	疾患別装具療法の実践 2：脳血管障害（装具作成）		
8	疾患別装具療法の実践 2：脳血管障害（装具作成）		
9	疾患別装具療法の実践 2：脳血管障害（装具作成）		
10	疾患別装具療法の実践 2：脳血管障害（装具作成）		
11	疾患別装具療法の実践 3：拘縮（装具作成）		
12	疾患別装具療法の実践 3：拘縮（装具作成）		
13	疾患別装具療法の実践 3：拘縮（装具作成）		
14	疾患別装具療法の実践 3：拘縮（装具作成）		
15	発表、まとめ		
<p>【使用テキスト】 ・「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学」佐伯覚 編 医学書院</p> <p>【参考文献】 ・「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学」山中武彦, 中村恵一 編 メジカルビュー社 ・「義肢装具と作業療法 評価から実践まで」大庭潤平, 西村誠次, 柴田八衣子 医歯薬出版 ・「リハビリテーション 義肢装具学」清水順一, 青木主税 編 メジカルビュー社 「手のスプリントのすべて」 第3版 矢崎潔 著 三輪書店 必要に応じてプリントを配布する。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 発表（50%），作成物・提出物（50%）で評価する。 60点以上で合格。</p>	

授業概要			
日常生活活動学演習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	松木平 和人	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 日常生活活動における動作の分析及び問題点の抽出方法を学ぶ 基本的動作の介助方法を学ぶ 対象者の一連の日常生活支援について学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 日常生活活動の動作分析と移乗方法、問題点抽出を実践する</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動の動作分析手順が理解できる ・基本的動作の介助方法について理解できる ・対象者の一連の日常生活支援について理解できる 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・基本的日常生活動作の分析① (起居)		
2	基本的日常生活動作の分析② (立ち上がり)		
3	基本的日常生活動作の分析③ (食事)		
4	基本的日常生活動作の分析④ (排泄)		
5	基本的日常生活動作の分析⑤ (更衣)		
6	基本的日常生活動作の分析⑥ (入浴)		
7	ADL 介助法① (臥位～座位)		
8	ADL 介助法② (座位～立位)		
9	ADL 介助法③ (移乗)		
10	ADL 介助法④ (移乗)		
11	症例検討① ADL 評価		
12	症例検討② ADL 評価		
13	症例検討③ 問題点抽出・目標設定		
14	症例検討④ ADL 治療プログラム立案		
15	症例発表		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「標準作業療法学 専門分野 日常生活活動学・社会生活行為学 第2版」医学書院		レポート課題 (75%), 発表 (25%). レポート及び発表の合計が 60 点以上合格.	

授業概要			
作業療法学演習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	木立 美由紀・安部 美和・佐名木 めぐみ ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
60	4(120)	3年 前期・後期	必修
[授業の目的・ねらい] 国家試験を受験する上で必要な内容として、今まで履修してきた科目を再度確認する必要がある。そのため、以下のポイントを押さえて復習していくこととする。 ① 基礎医学・臨床医学を理解を進めていくことで、作業療法の専門知識に結び付ける ② 作業療法専門分野の基礎作業療法にあたる、作業療法の歴史・管理学・評価学の知識を①と結びつける ③ 障害別作業療法治療学を解ける知識を①と②を結びつける 以上のポイントを押さえて、国家試験に臨める知識を養う。			
[授業全体の内容の概要] 前期・後期を通して分野別 task を通して、学生間での調べ学習とアウトプットを行う。また、決められたタイミングでは教員にアウトプットを行い、知識の重層的なつながりに繋げていく。 学科教員はティーチングアシスタント(TA)として学生の理解状況を把握し、担任・副担任と協業していく。担任・副担任以外の教員にも相談して学習を進めていくこととする。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 国家試験を受験するための専門知識の学力を整えることができる			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1-3	文献レビュー		
4-6	本文作成		
7-9	本文作成		
10-12	研究発表		
13-15	基礎作業療法学(作業療法の基本・作業療法の範囲・作業療法学の基礎)作業療法管理学		
16-18	作業療法評価学((時期と手順・心身機能・身体構造・基本動作・活動・参加・背景因子・疾患・障害)		
19-21	作業療法治療学の基礎(基礎・心身機能・身体構造・基本動作)、義肢・装具・支援機器・自助具等(義肢・装具)		
22-24	精神・心理(症状性を含む器質性精神障害・精神作用物質使用による精神および行動障害・統合失調症)		
25-27	精神・心理(気分障害・神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害・生理的障害及び行動症候群)		
28-30	精神・心理(パーソナリティ障害・精神遅滞・ASD・小児期及び青年期に発症する行動情動障害・てんかん)		
31-33	認知症(症状の特徴・対応と環境調整・介入法・作業療法・症例問題)		
34-36	高次脳機能障害(概要・症状と責任病巣・対応と介入方法・全般性注意障害に対する動作指導・症例問題)		
37-39	骨関節(変形性関節症・骨折・関節リウマチ・骨形成不全)		
40-42	中枢神経(脳血管疾患・Parkinson 病・脊髄小脳変性症・ALS・MS・TBI・脊髄損傷)		
43-45	神経筋疾患(筋ジストロフィー・多発性筋炎・皮膚筋炎・神経筋接合部疾患・ニューロパチー・末梢神経損傷)		
46-48	発達(脳性麻痺・二分脊椎・運動発達遅滞・Down 症候群)		
49-51	呼吸・循環・代謝(COPD 等・虚血性心疾患、心不全・糖尿病、慢性腎臓病)		
52-54	その他の疾患(廃用症候群・がん・熱傷・摂食嚥下障害)		
55-57	地域作業療法学(基礎・評価と支援)		
58-60	臨床実習(実習前準備・医療提供施設実習実施内容・地域実習実施内容)		
[使用テキスト(①・②)]・[参考書(③・④)] ①理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 ②理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学 ③理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎 OT 学 ④理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別 OT 治療学		[単位認定の方法及び基準] 卒業論文で 60 点以上を合格とする 筆記試験にて 60 点以上を合格とする	

授業概要																																													
臨床作業療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																																										
	講義	富高 史裕	有																																										
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択																																										
60	4(120)	3年 後期	必修																																										
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>国家試験を受験する上で必要な内容として、今まで履修してきた科目を再度確認する必要がある。そのため、この科目では以下のポイントを復習していくこととする</p> <p>① 基礎三科目(解剖学, 運動学, 生理学)の構造を理解する。</p> <p>② 臨床医学を理解する。</p> <p>③ 作業療法専門分野につながる。</p> <p>以上のポイントを押さえて、国家試験に臨むための知識を取得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>前期・後期を通して分野別 task を通して、学生間での調べ学習とアウトプットを行う。また、決められたタイミングでは教員にアウトプットを行い、知識の重層的なつながりに繋げていく。</p> <p>学科教員はティーチングアシスタント(TA)として学生の理解状況を把握し、担任・副担任と協業していく。担任・副担任以外の教員にも相談して学習を進めていくこととする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>国家試験を受験するための基礎学力を整えることができる</p>																																													
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-3</td> <td>解剖・生理学(総論・骨格系)</td> </tr> <tr> <td>4-6</td> <td>解剖・生理学(筋系)</td> </tr> <tr> <td>7-9</td> <td>解剖・生理学(神経系・自律神経)</td> </tr> <tr> <td>10-12</td> <td>解剖学(脈管系・内臓諸器官)</td> </tr> <tr> <td>13-15</td> <td>解剖学(感覚器・体表解剖・組織)</td> </tr> <tr> <td>16-18</td> <td>生理学(運動・呼吸・循環・血液、免疫)</td> </tr> <tr> <td>19-21</td> <td>生理学(咀嚼・嚥下、消化、吸収・排便・腎、排尿・内分泌、栄養、代謝・体温調節・生殖)</td> </tr> <tr> <td>22-24</td> <td>運動学総論・四肢体幹の運動・姿勢・歩行・運動制御(学習)</td> </tr> <tr> <td>25-27</td> <td>人間発達学総論</td> </tr> <tr> <td>28-30</td> <td>病理学概論</td> </tr> <tr> <td>31-33</td> <td>臨床医学概論</td> </tr> <tr> <td>34-36</td> <td>リハビリテーション医学</td> </tr> <tr> <td>37-39</td> <td>臨床心理学</td> </tr> <tr> <td>40-42</td> <td>精神・心理の臨床医学(症状性を含む器質性精神障害・精神作用物質使用による精神および行動障害・統合失調症)</td> </tr> <tr> <td>43-45</td> <td>精神・心理の臨床医学(気分障害・神経症性障害、ストレス障害及び身体表現性障害・生理的障害及び行動症候群)</td> </tr> <tr> <td>46-48</td> <td>精神・心理の臨床医学(パーソナリティ障害・精神遅滞・ASD・小児期及び青年期に発症する行動情動障害・てんかん)</td> </tr> <tr> <td>49-51</td> <td>骨関節障害の臨床医学</td> </tr> <tr> <td>52-54</td> <td>末梢神経と筋の障害と臨床医学</td> </tr> <tr> <td>55-57</td> <td>小児と老年期の障害と臨床医学</td> </tr> <tr> <td>58-60</td> <td>内部障害と臨床医学・その他障害と臨床医学・保健医療福祉とリハビリテーション理念</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1-3	解剖・生理学(総論・骨格系)	4-6	解剖・生理学(筋系)	7-9	解剖・生理学(神経系・自律神経)	10-12	解剖学(脈管系・内臓諸器官)	13-15	解剖学(感覚器・体表解剖・組織)	16-18	生理学(運動・呼吸・循環・血液、免疫)	19-21	生理学(咀嚼・嚥下、消化、吸収・排便・腎、排尿・内分泌、栄養、代謝・体温調節・生殖)	22-24	運動学総論・四肢体幹の運動・姿勢・歩行・運動制御(学習)	25-27	人間発達学総論	28-30	病理学概論	31-33	臨床医学概論	34-36	リハビリテーション医学	37-39	臨床心理学	40-42	精神・心理の臨床医学(症状性を含む器質性精神障害・精神作用物質使用による精神および行動障害・統合失調症)	43-45	精神・心理の臨床医学(気分障害・神経症性障害、ストレス障害及び身体表現性障害・生理的障害及び行動症候群)	46-48	精神・心理の臨床医学(パーソナリティ障害・精神遅滞・ASD・小児期及び青年期に発症する行動情動障害・てんかん)	49-51	骨関節障害の臨床医学	52-54	末梢神経と筋の障害と臨床医学	55-57	小児と老年期の障害と臨床医学	58-60	内部障害と臨床医学・その他障害と臨床医学・保健医療福祉とリハビリテーション理念
回	内容・備考																																												
1-3	解剖・生理学(総論・骨格系)																																												
4-6	解剖・生理学(筋系)																																												
7-9	解剖・生理学(神経系・自律神経)																																												
10-12	解剖学(脈管系・内臓諸器官)																																												
13-15	解剖学(感覚器・体表解剖・組織)																																												
16-18	生理学(運動・呼吸・循環・血液、免疫)																																												
19-21	生理学(咀嚼・嚥下、消化、吸収・排便・腎、排尿・内分泌、栄養、代謝・体温調節・生殖)																																												
22-24	運動学総論・四肢体幹の運動・姿勢・歩行・運動制御(学習)																																												
25-27	人間発達学総論																																												
28-30	病理学概論																																												
31-33	臨床医学概論																																												
34-36	リハビリテーション医学																																												
37-39	臨床心理学																																												
40-42	精神・心理の臨床医学(症状性を含む器質性精神障害・精神作用物質使用による精神および行動障害・統合失調症)																																												
43-45	精神・心理の臨床医学(気分障害・神経症性障害、ストレス障害及び身体表現性障害・生理的障害及び行動症候群)																																												
46-48	精神・心理の臨床医学(パーソナリティ障害・精神遅滞・ASD・小児期及び青年期に発症する行動情動障害・てんかん)																																												
49-51	骨関節障害の臨床医学																																												
52-54	末梢神経と筋の障害と臨床医学																																												
55-57	小児と老年期の障害と臨床医学																																												
58-60	内部障害と臨床医学・その他障害と臨床医学・保健医療福祉とリハビリテーション理念																																												
<p>[使用テキスト①・②]・[参考書③・④]</p> <p>①理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学</p> <p>②理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学</p> <p>③理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎 OT 学</p> <p>④理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別 OT 治療学</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験にて 60 点以上を合格とする</p>																																											

授業概要			
地域作業療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法が対象とする領域は、医療機関から地域へと広がっている。本科目では地域における様々な対象者に対し、その地域背景や制度を理解しながら、各領域での作業療法評価・治療計画の立案、実施について考えていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 地域での作業療法、役割の理解と制度、支援について学習する。また、生活行為向上マネジメント (MTDLP) 演習を取り入れ、対象者の全体像を把握する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 地域における作業療法士の役割を理解し講義や演習を通して、チームアプローチの必要性や社会サービスを理解し説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	地域作業療法の基盤と背景 地域作業療法を考察する		
2	地域作業療法を支える制度・社会生活支援 地域包括ケアシステム 総合事業		
3	他職種の連携と協働を理解する		
4	各領域作業療法の事例演習①		
5	各領域作業療法の事例演習②		
6	各領域作業療法の事例演習③		
7	MTDLP 講義		
8	MTDLP 演習① (シート作成演習)		
9	MTDLP 演習② (シート作成演習)		
10	MTDLP 演習③ (身障系作業療法)		
11	MTDLP 演習③ (精神系作業療法)		
12	MTDLP 演習④ (老年期作業療法)		
13	MTDLP 演習⑤ (発達系作業療法)		
14	国家試験対策 (地域作業療法)		
15	総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準作業療法学 地域作業療法学第4版 医学書院 作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 一般社団法人 日本作業療法士協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要																					
就労支援作業療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																		
	講義	木立 美由紀	有																		
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択																		
8	1(15)	2年・後期	必修																		
<p>【授業の目的・ねらい】 就労支援における作業療法の位置づけを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 職業リハビリテーションの理念と意義について学ぶ。職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 職業リハビリテーションの理念と意義を説明できる。職業リハビリテーションにおける作業療法の役割を説明できる。</p>																					
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>職業リハビリテーション活動の概念</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>障害者と職業</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>障害者の就労制度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>就労支援の実際 (ジョブコーチ, IPS)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>作業療法評価課程</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>作業能力評価の方法と実際 I (一般職業適性検査)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>作業能力評価の方法と実際 II (職業レディネステスト)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめ</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1	職業リハビリテーション活動の概念	2	障害者と職業	3	障害者の就労制度	4	就労支援の実際 (ジョブコーチ, IPS)	5	作業療法評価課程	6	作業能力評価の方法と実際 I (一般職業適性検査)	7	作業能力評価の方法と実際 II (職業レディネステスト)	8	まとめ
回	内容・備考																				
1	職業リハビリテーション活動の概念																				
2	障害者と職業																				
3	障害者の就労制度																				
4	就労支援の実際 (ジョブコーチ, IPS)																				
5	作業療法評価課程																				
6	作業能力評価の方法と実際 I (一般職業適性検査)																				
7	作業能力評価の方法と実際 II (職業レディネステスト)																				
8	まとめ																				
<p>[使用テキスト・参考文献] 標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60点以上合格</p>																			

授業概要			
生活環境学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15	2(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業と環境を切り離して考えることは難しく、種々の環境を移動しながら人間は生活を構成している。高齢者や障害者の日常的な生活の中で、住まいをどうすればいいか、住環境の整備ポイントを学ぶ。個々の福祉用具の特徴を押さえ、対象者に合わせた生活を提供する必要性を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習・講義を通して、住環境整備のポイントを押さえていく。福祉用具やリハ機器の名称、使い方を理解する。毎回の授業では前回の授業で学んだ知識を定着させるために振り返りの時間を設ける。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患に合わせた住環境整備の方法を学ぶことができる。福祉用具の特徴を整理し、個々の事例に合わせた目標設定ができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション,生活環境学とは		
2	住環境整備の意義		
3	住環境整備の進め方と留意点		
4	住環境整備の基本的配慮①		
5	住環境整備の基本的配慮②		
6	住環境整備の基本的配慮③		
7	住環境整備の基本的配慮④		
8	疾患障害別にみる住環境整備①		
9	疾患障害別にみる住環境整備②		
10	疾患障害別にみる住環境整備③		
11	疾患障害別にみる住環境整備④		
12	疾患障害別にみる住環境整備⑤		
13	生活環境学関連国家試験問題対策		
14	間取り作成演習		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
OT・PTのための住環境整備論 第3版 三輪書店		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
地域作業療法学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	木立 美由紀・安部 美和・吉野 孝弘・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
	1(45)	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 地域でデイサービス、デイケア等を利用する対象者の問題点を理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 地域で作業療法士が働く場を利用する対象者の問題・施設の必要性を知るために実習を行う</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 地域で通所リハビリテーション・デイケア等を利用する対象者の問題点が理解できる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
<p>2年次の7～8月に40時間を1施設で実習する。</p> <p>デイリーノートと実習レポート(感想文)の提出を求める。 実習報告会を行う。</p> <p>*対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習施設での評価に、学校での発表等を加味し採点。60点以上合格。	

授業概要			
臨床実習 I (見学)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	木立 美由紀・安部 美和・吉野 孝弘・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
	1(45)	1年・後期	必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・地域での病院・施設の役割やリハビリテーション部門の概略を理解する. ・社会や医療の中における作業療法の責任を理解する. ・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ. ・社会人・職業人としての目を養い,心を養う. ・作業療法士になることへの動機づけを高め,以後の学習への意欲を高める. 			
[授業全体の内容の概要] [授業終了時の達成課題(到達目標)]			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
	内容・備考		
	<p>1年次の所定の科目を履修した学生は学年末に40～45時間を1施設で実習する.</p> <p>デイリーノートと実習レポート(感想文)の提出を求める.</p> <p>実習報告会を行う.</p> <p>＊実習前に,検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと.</p> <p>＊対象者様と接する実習であるため,「甘え」は禁物である.全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること.対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること.</p>		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習施設での評価に,学校での発表等を加味し採点.60点以上合格.	

授業概要			
臨床実習Ⅱ（評価）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	木立 美由紀・安部 美和・吉野 孝弘・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
	4(180)	2年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ知識・技術を実習指導者の下で実際に症例に応用する。 ・評価の一連の流れを習得する。 ・症例の身体機能,精神機能,生活機能を様々な角度から分析し,問題を把握する。 ・医療人・職業人としての目を養い,心を養う。 ・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。 ・社会人・職業人としての目を養い,心を養う。 ・作業療法士になることへの動機づけを高め,以後の学習への意欲を高める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
<p>2年次の所定の科目を履修した学生は,学年末に160～180時間を1施設で実施する。</p> <p>デイリーノート,作業療法参加型実習チェックリストの提出を求める。</p> <p>実習報告会を行う。</p> <p>*実習前に,検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。</p> <p>(注意)</p> <p>対象者様と接する実習であるため,「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		<p>実習施設での評価に,学校での発表等を加味し採点。60点以上合格。</p>	

授業概要			
臨床実習Ⅲ（総合）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	木立 美由紀・安部 美和・吉野 孝弘・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
	16(720)	3年・前期・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価実習の経験を生かし、対象者様の全体像をとらえ目標設定をおこない、実習指導者の指導の下で作業療法プログラムを立案、実施する。 ・対象者様との交流を通して、生活の視点を養う。 ・リハビリテーションチームのあり方を学ぶ。 ・専門職・社会人として責任のある態度・行動がとれるようになることを目指す。 ・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。 ・社会人・職業人としての目を養い、心を養う。 ・作業療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
<p>1回の実習で320～360時間の実習を行い、2施設で640～720時間を満たす。 デイリーノート、作業療法参加型実習チェックリスト、MTDLP関連シートの提出を求める。 実習報告会を行う。</p> <p>*実習前に、検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。</p> <p>(注意) 対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習施設での評価に、学校での発表等を加味し採点。60点以上合格。	